

RouteMagic

RouteMagic Controller

RMC Version 2.0

コマンドリファレンス

- 2002/04 -



Copyright©2002 株式会社 ルートレック・ネットワークス All rights reserved.

このマニュアルの著作権は、株式会社 ルートレック・ネットワークスが所有しています。
このマニュアルの一部または全部を無断で使用したり複製することはできません。
このマニュアルの内容は、予告なく変更されることがあります。

Copyright©2002 株式会社 ルートレック・ネットワークス All rights reserved.

RouteMagic Server の著作権は、株式会社 ルートレック・ネットワークスが所有しています。
このソフトウェアの一部または全部を無断で使用したり複製することはできません。
このソフトウェアは、使用許諾契約書に記載されている以外の使用はできません。
このソフトウェアの仕様は、予告無く変更されることがあります。

商標について

ルートレック・ネットワークスのロゴおよび RouteMagic は、株式会社 ルートレック・ネットワークスの登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft 社の商標です。

本書に記載されている製品名等の固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)."

Postfix mail system

Copyright (c) 1997,1998,1999, International Business Machines Coporation and others. All Rights Reserved.

はじめに

本書の目的

本書は、RouteMagic Controller ソフトウェアバージョン 2.0 でご利用いただけるコマンドの機能について解説しています。RouteMagic 製品の仕様ならびに設置・設定の方法に関しましては、「RMC Version 2.0 取扱説明書」をご参照ください。

本書の対象読者

本書は、次の方を対象に記述されています。

- RMC のコマンドおよび操作性に関して理解されている方
- ネットワーク環境の設定に関して基礎的な知識のある方

関連ドキュメント

RMC には、本書の他に、次のドキュメントが用意されています。

- RMC 取扱説明書 Version 2.0
RMC の設置と初期設定の方法を中心に記述しています。RMC の仕様とお取扱に関しても、こちらをご覧ください。
- RMC クイックリファレンス Version 2.0
RMC が提供するコマンドの機能一覧です。
- RMC リリースノート Version 2.0
最新リリースの RMC ソフトウェアに関して、使用上のご注意や良くあるご質問への回答などを記述しています。
- RMC 一括セットアップガイド
多数の RMC を設置される場合の、一括セットアップ/バージョンアップに関して記述しています。
- RMC 一般機器接続ガイド
RMC に Cisco 社のルータ/スイッチ以外の装置を接続して監視対象とする場合の設定や注意事項を記述しています。

本書で使用される表記について

本書では、以下に示した表記方法に従って RMC コマンドの説明を行っています。

■ {}

省略する事のできない引数を示します。(括弧そのものは入力しない)

例) `set mailto {mail-address}`

引数としてメールの宛先アドレス、例えば `rmc_mail@routrek.co.jp` という文字列を入力します。アドレスの記述を省略する事はできません。

■ []

省略可能な引数、またはコマンド内の要素を示します。(括弧そのものは入力しない)

例) `set [no] exec`

コマンド名として `set exec` または `set no exec` が指定可能である事を示します。

例) `set date {MMDDhhmm[YYYY]}`

システムクロックに日時をセットする場合、`MMDDhhmm` (月、日、時、分) は省略できない引数、`YYYY` (西暦年) は省略可能な引数である事を示します。

■ |

いくつかの選択肢がある引数を示します。その中から1つを選んで入力します。

例) `set speed { 2400|4800|9600|19200|38400 }`

シリアルポートの通信速度設定コマンドでは、`2400bps` から `38400bps` までの5つの通信速度の中から1つを選んで指定できることを示します。

通信速度の記述を省略する事はできません。

■ **イタリック体(斜体)**で表示された引数

指定したい文字列や数字に置き換えて入力する引数を表します。

一方、イタリック体ではない引数は、文字通りタイプする必要があります。

例) `set port {port_name}`

引数としては、`"com1"`、`"com2"`などがあります。`"port_name"`そのものを入力するわけではありません。

例) `set parity { none|odd|even }`

引数として、`"none"`、`"odd"`、`"even"`のいずれかの文字列を指定します。

ポート名一覧表

RMC コマンドで使用されるポート名は、以下の通りです。

ポート名	内容
com1, com2	シリアルポート (COM1 ポート、COM2 ポート)
ml0,ml1...ml7	メールポート 0、1...7
eth0	イーサネットポート
rmc	RMC のセットアップ情報やキープアライブメッセージの出力を意味する仮想ポート。”set spy rmc <メールポート>”で指定されたメールポートに内容が送信される。
target1, target2	com1, com2 に接続された監視対象装置の、ネットワーク情報・生存確認情報・操作ログの出力を意味する仮想ポート。”set spy target1/2 <メールポート>”で指定されたメールポートに内容が送信される。

目次

1. システムコマンド

connect	1
copy	3
enable.....	5
disable.....	6
exit	7
quit.....	8
reload	9
shutdown	10
upgrade.....	11
write memory	12
write erase	13
set access-list.....	14
set no access-list	16
show access-list	17
set date	18
show date.....	19
set escape-character	20
set exec-timeout.....	22
set no exec-timeout.....	23
set password	24
set enable-password	25
set port.....	26
show port	27
set spy	28
set no spy	30
show spy	31
set user-name	32
set no user-name	33
show user-names	34
set user-password.....	35
set prompt.....	36
set no prompt.....	37
show users	38
show configuration	39
show running-config.....	42
show log	45
show tech-support	46
show memory.....	47

show version.....	48
-------------------	----

2. シリアルポートローカルコマンド

set csize.....	49
set flowcontrol	50
set parity	51
set speed	52
set stopbits	53
set exec	54
set no exec	55
set modem.....	56
set no modem.....	58
set ppp-username	59
set no ppp-username.....	60
set ppp-server	61
set no ppp-server	62
set connect-log	63
set no connect-log	64
set network-info-time.....	65
set no network-info-time.....	66
set target-login-password.....	67
set no target-login-password.....	68
set target-enable-password.....	69
set no target-enable-password.....	70
set target-check	71
set no target-check	72
set target-type	73
set script	74
set no script	78
script-test	79

3. イーサネットローカルコマンド

set address.....	80
set no address.....	82
set broadcast-address.....	83
set dhcp.....	84
set no dhcp.....	85

目 次

4. 電子メール関連コマンド

set filter-list	86
set keep-alive-time	88
set no keep-alive-time	89
set mail-certification	90
set no mail-certification	91
set mail-relayhost.....	92
set no mail-relayhost.....	93
set mail-service.....	94
set no mail-service.....	95
set mail-origin	96
set no mail-origin	97
set public-key.....	98
set no public-key.....	99
show public-keys	100
show mail.....	101
set pop-username	102
set no pop-username	103
set pop-before-smtp	104
set no pop-before-smtp	105
set pop-interval.....	106
set no pop-interval.....	107
filter-test.....	108
mail-test.....	109
show key-list.....	110

5. 電子メールポートローカルコマンド

hook.....	111
hook no.....	112
set errors-to	113
set no errors-to	114
set inactivity-timer.....	115
set no inactivity-timer.....	116
set mailto	117
set no mailto	118
set mail-encryption.....	119
set no mail-encryption.....	120
set max-nmr-of-chars	121
set max-nmr-of-lines	122

6. IPサービスコマンド

set arp.....	123
show arp	124
clear arp.....	125
set domain-name.....	126
set no domain-name	127
set hostname	128
show hostname.....	129
set hosts.....	130
set no hosts.....	131
show hosts	132
set name-servers	133
set no name-servers	134
set ntp-server	135
show tcp.....	136
set no ntp-server	137

7. SSH (Secure SHell) 関連コマンド

show ssh-hostkey	138
show ssh-key-list.....	139
show ssh-public-keys.....	140
set ssh-protocol.....	141
set ssh-authentication.....	142
set ssh-public-key.....	143
set no ssh-public-key.....	144
host	145
ping.....	146
traceroute	147
ppp-on.....	148
ppp-off.....	149

索引 (Alphabetic)	150
-----------------------	-----

connect

機能： 指定されたポートと現在使用中の端末を接続する

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `connect {com1|com2}`

引数にはシリアルポート名を指定する。

説明：

引数で指定されたポートとユーザの端末を接続し、**com1** または **com2** に接続された機器を RMC にログインした端末から直接操作する事ができる。

コマンドを実行すると、以下のメッセージが表示される。

Escape character is CTRL-¥

connect を終了するには **CTRL-¥ x** を入力してください。

'CTRL-¥'は、コマンド'**set escape-character**'で設定されたエスケープ文字であり、デフォルト値は'**CTRL-¥**'となっている。

このエスケープ文字による機能には以下のものがある。

エスケープ文字を入力した直後の一文字	機能
x または X	connect コマンドの終了
エスケープ文字自身	エスケープ文字の送出
b または B	BREAK 信号送出
?	ヘルプの表示

com1 ポートまたは **com2** ポートの設定は接続されている機器に合わせ設定されている必要がある。

com2 ポートにはシリアルログイン状態 (**set exec** された状態) とモデム接続状態 (**set modem** された状態) があり、それらの状態では **connect** 接続を行う事は出来ない。

'**set connect-log**'された状態で、**connect** コマンドを使用すると'**set spy**'により対象シリアルポートと接続されたメールポートに設定されたメールアドレスに対して、**connect** コマンドの開始から終了までの操作ログを送信する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中にアルファベット、数字、ハイフン以外の文字が含まれている
ポートを指定してください	引数が無い
ポートが使用中です	引数で指定されたポートの機器が他のプロセスにより使用中となっている
<引数>との接続はできません	引数に com1 、 com2 以外が指定された

メッセージ	発生原因
メールポート<メールポート名>に宛先が設定されていないため、接続ログの送信は行われません	set connect-log が設定されているが、 set spy によって接続されているメールポートに宛先が設定されていない
set exec 中は接続できません	接続対象のシリアルポートが set exec されているため、(シリアルログイン状態) connect コマンドを実行することが出来ない
set modem 中は接続できません	接続対象のシリアルポートが set modem されているため、(モデム接続状態) connect コマンドを実行することが出来ない

例：

connect com1

com1 に接続された機器を操作する

connect com2

com2 に接続された機器を操作する

関連項目： **set speed**, **set parity**, **set csize**, **set flowcontrol**, **set stopbits**, **set [no] connect-log**,
set [no] exec, **set [no] modem**

copy

機能： 設定情報のコピーを行う

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `copy {from} {to}`

第 1 引数はコピー元を指定する。

第 2 引数はコピー先を指定する。

説明：

設定情報のコピーを行う。引数に指定できるのは“running-config”(現在の設定)、“startup-config”(保存された設定)、“tftp”(tftp サーバにバイナリ形式で保存・読み出し)、“terminal”(コンソール)の 4 種類。

引数に“tftp”を指定した場合、実行時に tftp ホスト名およびファイル名を指定する必要がある。なお、コピー元、コピー先の組み合わせには以下の表のような制限がある。

コピー元 \ コピー先	running-config	startup-config	tftp	terminal
running-config		○ ※2	○	○ ※3
startup-config	○ ※1		○	○ ※4
tftp	○ ※1	○		○
terminal	○ ※1	×	×	

- ※ 1: 設定が置き換えられるわけではなく、既存の設定に追加設定される形になる
- ※ 2: write memory コマンドと同等の操作
- ※ 3: show running-config と類似しているが、PGP 公開鍵などの詳細設定を表示する
- ※ 4: show configuration と類似しているが、PGP 公開鍵などの詳細設定を表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
指定できない引数 xxx です	引数に不正なコピー先、コピー元が指定された
write memory されていません	設定が保存されていない状態で、copy startup-config tftp が実行された
IP アドレスが設定されていないため、tftp は使えません	RMC の IP アドレスが設定されていない状態で、引数に tftp が指定された
tftp サーバ名を指定してください	tftp サーバが指定されていない。
指定されたファイルは、RMC の設定ファイルではありません	指定された tftp サーバ中のファイルが、RMC のバイナリ形式での設定ファイルではない。または、異なるバージョンの RMC の設定ファイル

メッセージ	発生原因
指定されたファイルは、異なるバージョンの設定ファイルです	指定された tftp サーバ中のファイルが、異なる RMC ソフトウェアバージョン用の設定だった
ファイルの取得に失敗しました	tftp でのファイル受信が失敗
設定ファイルの送信に失敗しました	tftp でのファイル送信が失敗

例：

copy running-config startup-config

現在の設定情報を保存する（**write memory** と同動作）

copy startup-config tftp

RMC 内部に保存された設定情報を **tftp** サーバに保存する。

copy running-config terminal

現在の設定内容を端末に表示する

関連項目： **write memory**, **show running-config**, **show configuration**

enable

機能： 特権モードへ移行する

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： enable

説明：

当コマンドを実行すると特権モードのパスワードを尋ねるプロンプトが現れ、パスワードを入力する事により、特権モードへ移行する。

特権モードに移行する事で、特権モードでしか実行することが出来ないコマンド実行することが出来るようになる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
enable: Authentication failure.	間違ったパスワードが入力された *注
このコマンドに引数は必要ありません	不要な引数が指定された

*注：パスワード設定されていない（空文字）場合はパスワード入力プロンプトが表示されている状態でエンターキーのみ入力する

例：

```
enable
```

関連項目： disable, exit, quit, set enable-password

disable

機能： 特権モードから通常モードへ移行する

コマンド種類： グローバルコマンド,特権

書式： `disable`

説明：

当コマンドにより特権モードから通常モードへ移行する。

メッセージ：

なし

例：

`disable`

関連項目： `enable`,`exit`,`quit`

exit

機能： 特権モードから通常モードへ移行する。または RMC からログアウトする。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： **exit**

説明：

特権モードで使用了した場合、通常モードへ移行する。

通常モードで使用了した場合、RMC をログアウトする。

メッセージ：

なし

例：

exit

関連項目： **enable,disable,quit**

quit

機能： 特権モードから通常モードへ移行する。または RMC からログアウトする。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： quit

説明：

特権モードで使用した場合、通常モードへ移行する。

通常モードで使用した場合、RMC をログアウトする。

メッセージ：

なし

例：

quit

関連項目： enable,disable,exit

reload

機能： RMC の再起動を行う。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： reload

説明：

RMC の再起動を行う。

実行すると、確認のプロンプトが表示され、そこで'y'を入力すると再起動を行う。保存していない設定は破棄される。この時に保存していない設定があった場合、その項目が表示され、破棄しても良いかどうかの確認プロンプトが先に表示される。

メッセージ：

なし

例：

```
reload
```

関連項目： shutdown

shutdown

機能：RMC を停止させる。

コマンド種類：グローバルコマンド、特権

書式：shutdonw

説明：

RMC を停止させる。

当コマンドを実行すると、確認のプロンプトが表示され、そこで'y'を入力すると RMC のシャットダウンを行う。保存していない設定は破棄される。この時、保存していない設定があった場合、その項目が表示され、破棄しても良いかどうかの確認プロンプトが表示される。シャットダウンは再起動は行わない。また、電源が自動で切れることはない。再起動させるためにはハードリセットボタンを押すか、電源の「切/入」を行う必要がある。

メッセージ：

なし

例：

```
shutdown
```

関連項目：reload

upgrade

機能：RMC のソフトウェアのアップグレードを行う。

コマンド種類：グローバルコマンド、特権

書式：upgrade [tftp]

引数はアップグレードファイルを tftp サーバから得る場合に指定する。

説明：

ソフトウェアのアップグレードを行う。

引数なしで当コマンドを実行すると、確認のプロンプトが表示される。'y'を入力すると、ホストからの接続待ち状態となり、ホストから送信操作を行う事でアップグレードファイルの受信が開始される。

引数に“tftp”を指定した場合は、確認のプロンプトの表示の後 tftp サーバ名およびファイル名の入力を行った後、サーバからのアップグレードファイルの受信を開始する。

いずれの場合も、アップグレード処理が終了すると自動的に再起動を行う。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数が異常です	'tftp'以外の文字が引数に指定された
IP アドレスが設定されていないため、アップグレードファイルの受信が出来ません	RMC に IP アドレスの設定がされていない状態で引数'tftp'を指定した
ファイル受信が異常終了しました	tftp でアップグレードファイルの受信を行ったが、何らかの原因でファイルを最後まで受信する事が出来なかった
有効なファイルを受信しませんでした	受信したファイルが正しいアップグレードファイルでは無かった

例：

```
upgrade
```

```
upgrade tftp
```

関連項目：reload

write memory

機能： RMC の現在の設定情報を保存する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： write memory

説明：

RMC の現在の設定情報を保存する。

当コマンドの実行により、以前の保存情報は上書きされる。

以降 RMC が起動または再起動された場合、当コマンドによって保存された時点の設定状態で起動される。'write erase'コマンドにより、設定情報を工場出荷時の状態に戻す事が出来る。

メッセージ：

なし

例：

write memory

関連項目： write erase, copy

write erase

機能： 保存されているユーザ設定情報を破棄する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `write erase`

説明：

'write memory'コマンドで保存された RMC の設定情報を破棄する。

当コマンド実行後、すぐに設定状態が工場出荷状態には戻らず、以降 RMC が起動または再起動された場合、工場出荷状態で起動される。

メッセージ：

なし

例：

`write erase`

関連項目： `write memory`, `reload`, `shutdown`, `copy`

set access-list

機能： RMC に対する TCP/IP レベルでのアクセス制限を設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set access-list {allow|deny} {protocol} {IPaddress[/mask][,IPaddress/mask...]}`

第 1 引数は文字列 'allow'、'deny' のいずれかを指定。

第 2 引数は対象プロトコルを指定。

第 3 引数は IP アドレスまたはネットワークアドレスおよびネットマスクを指定。

説明：

第 1 引数が **allow** の場合は許可、**deny** の場合は禁止を表す。**allow** で指定された項目は **deny** で指定された項目よりも先に評価され、最初にアドレスがマッチした時点でそれ以上の評価はされない。そのため、**allow** と **deny** に同じアドレスが登録された場合、**allow** が優先されそのアドレスはアクセス可能となる。

第 2 引数は対象となるプロトコルを指定する。指定できるプロトコルは 'smtp(メール)', 'ssh', 'telnet', 'ftp'。

第 3 引数は IP アドレス又はネットワークアドレスを指定する。IP アドレス、ネットワークアドレス共にカンマで区切って複数の指定が可能。それぞれのアドレスの直後に '/' で区切りネットマスクを指定する事が出来る。

また、全ての IP アドレスをアクセス許可/禁止の対象とする場合は '0.0.0.0' を指定する。

なお、許可・禁止のいずれのアクセス制限も設定されていない場合は、アクセス許可の扱いになる(デフォルト設定)。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 引数にアルファベット小文字以外の文字が含まれている 第 2 引数にアルファベット以外の文字が含まれている 第 3 引数に数字、ピリオド、カンマ以外の文字が含まれている 引数の数が 3 以外 1 つの引数の文字数が 6 4 文字を超えている
無効な引数です	第 1 引数が 'allow', 'deny' 以外の文字列だった
無効なプロトコルです	第 2 引数が 'smtp', 'ssh', 'telnet', 'ftp' 以外の文字列だった

例：

set access-list allow telnet 192.168.1.

192.168.1.* で表されるネットワークアドレスに属す IP アドレスからの接続を許可。

set access-list allow telnet 192.168.2.10

IP アドレス 192.168.2.10 からの接続を許可。

set access-list allow telnet 192.168.2.20, 192.168.2.21

IP アドレス 192.168.2.20 と 192.168.2.21 からの接続を許可。

set access-list deny telnet 0.0.0.0

全てのアドレスからの telnet アクセスを禁止。

+上記の 4 つの設定を順に行うと、ネットワークアドレス 192.168.1 と IP アドレス 192.168.2.10、192.168.2.20、192.168.2.21 からの telnet 接続を許可し、それ以外は全て禁止となる。

set access-list deny smtp 192.168.2.16/28

192.168.2.16~192.168.2.31 からの smtp による接続を禁止。

関連項目：set no access-list, show access-list

set no access-list

機能： RMC に対する TCP/IP レベルでのアクセス制限の設定項目を削除する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set no access-list {allow|deny} {protocol} {IPaddress[/mask][,IPaddress/mask···]}`

第 1 引数は文字列 'allow'、'deny' のいずれかを指定。

第 2 引数は対象となるプロトコルを指定。

第 3 引数は IP アドレスまたはネットワークアドレスおよびネットマスクを指定。

説明：

第 1 引数が **allow** の場合は許可、**deny** の場合は禁止を表す設定情報からの削除を行う。

第 2 引数は対象となるプロトコルを指定する。

第 3 引数は IP アドレス又はネットワークアドレスとネットマスクを指定する。IP アドレス、ネットワークアドレス共にカンマで区切って複数の指定が可能。ネットワークアドレスのサブネットの指定は出来ない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 引数にアルファベット小文字以外の文字が含まれている 第 2 引数にアルファベット以外の文字が含まれている 第 3 引数に数字、ピリオド、カンマ以外の文字が含まれている 引数の数が 3 以外 1 つの引数の文字数が 64 文字を超えている
書式に誤りがあります	第 1 引数が 'allow', 'deny' 以外
指定した設定は存在しません	引数で指定された削除対象の項目が無い

例：

`set access-list allow telnet 192.168.1.` ←設定項目 (1)

`set access-list allow telnet 192.168.2.20, 192.168.2.21` ←設定項目 (2)

`set access-list deny smtp 192.168.2.16/28` ←設定項目 (3)

`set no access-list allow telnet 192.168.1.`

上記設定項目 (1) を削除

`set no access-list allow telnet 192.168.2.20, 192.168.2.21`

上記設定項目 (2) を削除。

`set no access-list deny smtp 192.168.2.16/28`

上記設定項目 (3) を削除。

関連項目： `set access-list`, `show access-list`

show access-list

機能： RMC に対する TCP/IP レベルでのアクセス制限の設定状態を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： show access-list

説明：

コマンド'**set access-list**'によって設定されたアクセス制限の設定状態を表示する。
アクセス許可設定の状態とアクセス禁止設定状態をそれぞれ順に表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるのみでエラーとはならない。

例：

```
set access-list allow telnet 192.168.1.          ←アクセスリスト設定
set access-list deny telnet 192.168.2.20, 192.168.2.21 ←アクセスリスト設定
show access-list                                ←アクセスリスト表示
set access-list allow telnet 192.168.1.
set access-list deny telnet 192.168.2.20, 192.168.2.21
```

関連項目： set [no] access-list

set date

機能：RMC のシステムクロックの設定を行う。

コマンド種類：グローバルコマンド、特権

書式：set date {MMDDhhmm[YYYY]}

MM=月

DD=日

h h =時

m m =分

YYYY=年（西暦）

説明：

引数に従ってシステムクロックの日時を設定する。

時間の表記は 24 時間で指定する。引数の「年」は省略可能であり、省略された場合は設定前と同年となる。「秒」の指定は出来ない。設定時の秒は必ず0となる。

ntp サーバが指定されている場合、当コマンドにより一時的に日時の変更はできるが、時間と共に ntp サーバにより時刻は修正される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が異常です	引数に指定された日時が範囲を超えているため日時の設定が出来なかった

例：

```
set date 02101005
```

2月10日10時5分に設定

```
set date 10301720
```

10月30日17時20分に設定

```
set date 090113302002
```

西暦2002年9月1日13時30分に設定

関連項目：show date, set [no] ntp-server

show date

機能： RMC のシステムクロックの値を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： show date

説明：

システムクロックの値（日時）を表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された

例：

```
[rmc@myrmc]> show date  
Mon Apr 1 10:00:05 JST 2002
```

関連項目： set date, set [no] ntp-server

set escape-character

機能： **connect** 時に使用するエスケープ文字を設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set escape-character {character}**

引数にはエスケープキャラクタを指定する。

説明：

'connect'コマンド実行時に使用できるエスケープ文字を設定する。

引数の書式は以下の 3 通り

CONTROL-<任意の一文字>

CTRL-<任意の一文字>

ESC

'ESC'はエスケープ（キャラクタコード 1 Bh）をエスケープ文字としてセットする。

'CONTROL-'または'CTRL-'の後に続く文字は、以下のいずれか 1 つを指定できる。

アルファベット A~Z (M を除く)、

アンダーライン'_、

アクサンシルコンフлекс'^、

バックスラッシュまたは円記号'¥、

左大括弧'[、

右大括弧']

エスケープ文字から使用できるコマンドは以下の通り。

エスケープ文字を入力した直後の一文字	機能
x または X	connect コマンドの終了
エスケープ文字自身	エスケープ文字の送出
b または B	BREAK 信号送出
?	ヘルプの表示

メッセージ：

メッセージ	発生原因
指定された文字列が無効です	<ul style="list-style-type: none"> 引数に使用できない記号が含まれている 設定できないエスケープ文字を指定された
引数が異常です	引数の文字列が長すぎる

例：

```
set escape-character ctrl-x
```

CONTROL-'X'をエスケープ文字としてセット

set escape-character CTRL-]

CONTROL-']'をエスケープ文字としてセット

set escape-character control-C

CONTROL-'C'をエスケープ文字としてセット

set escape-character ESC

エスケープコード (1 Bh) をエスケープ文字としてセット

関連項目 : connect

set exec-timeout

機能： 入力の無い時間が一定時間過ぎると強制的にログアウトさせるためのタイムアウト時間を設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set exec-timeout {N}**

引数にはタイムアウト時間（数字）を指定する。

説明：

引数の {タイムアウト時間} の単位は'分'。設定範囲は 1～999。

タイムアウト時間に'0'を指定すると、タイムアウト値は無制限となり、強制ログアウトを行わない。（**set no exec-timeout** コマンドと同動作）

タイムアウトのタイマはコマンド実行中には停止する。そのため、**connect** コマンドのように実行に時間がかかるコマンドの動作中にタイムアウト時間に達してもログアウトは行われない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に数字以外の文字が含まれている

例：

set exec-timeout 10

タイムアウト時間を 10 分に設定

set exec-timeout 1

タイムアウト時間を 1 分に設定

set exec-timeout 0

タイムアウト時間を無制限（強制ログアウト無し）に設定

関連項目： **set no exec-timeout**

set no exec-timeout

機能： 強制ログアウトを行うタイムアウト時間を無制限にする。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set no exec-timeout`

説明：

'set exec-timeout' コマンドで設定されたタイムアウトを無効にする。
当コマンド実行により、自動的なログアウトは行われなくなる。

例：

```
set no exec-timeout
```

関連項目： `set exec-timeout`

set password

機能： RMC にログインするためのパスワードを設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： set password

説明：

シリアルポートまたはイーサネット経由で RMC にログインする際の現在のログイン名に対するパスワードを設定する。

当コマンドを実行すると、新しいパスワードの入力を促すプロンプトが表示される。パスワードを入力すると、確認のためもう一度入力を促すプロンプトが表示される。そこで最初に入力したパスワード文字列と同じ文字列を再度入力する。

パスワードに入力の際は入力されたパスワードは画面には表示されない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に記号が含まれている *注
このコマンドに引数は必要ありません	必要の無い引数が指定されている

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるのみでエラーとはならない。

例：

```
[rmc@myrmc]# set password          ←コマンド入力
Changing password for rmc
Enter the new password (minimum of 5, maximum of 8 characters)
Please use a combination of upper and lower case letters and numbers.
New password:                      ←パスワード入力（入力文字は画面には表示されない）
Re-enter new password:             ←パスワード再度入力（入力文字は画面には表示されない）
Password changed.
ok
```

関連項目： set enable-password

set enable-password

機能： RMC の特権モードへ移行するためのパスワードの設定をする。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set enable-password`

説明：

RMC の特権モードへ移行するためのパスワードを設定する。

当コマンドを実行すると、それまで設定されていた古いパスワードの入力を促すプロンプトが表示される。それまで設定されていた古いパスワードを入力すると、次に新しいパスワードの入力を促すプロンプトが表示される。新しいパスワードを入力すると、確認のためもう一度新しいパスワードの入力を促すプロンプトが表示される。そこでもう一度新しいパスワード文字列を入力する事で新パスワードが設定される。

例：

```
[rmc@myrmc]# set enable-password      ←コマンド実行
current enable-password:              ←現在のイネーブルパスワードを入力
                                       (入力文字は表示されない)
new enable-password:                  ←新しく設定するイネーブルパスワードを入力
                                       (入力文字は表示されない)
retype new enable-password:           ←新しく設定するイネーブルパスワードを再度入力
                                       (入力文字は表示されない)

enable-password changed.
```

関連項目： `set password`

set port

機能： カレントポートを指定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set port {port_name}**
 引数にはポート名を指定する。

説明：

ローカルコマンドを実行するためのカレントポートを指定する。

以下のポートを引数に指定する事ができる。

シリアルポート： com1,com2

メールポート： ml0,ml1,ml2,ml3,ml4,ml5,ml6,ml7

イーサネットポート： eth0

当コマンドにより設定されたカレントポートは RMC のプロンプトに表示される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
ポートを指定してください	引数が無い
ポートは1つだけ指定できません	ポート名が2個以上指定された
引数が異常です	引数の文字列が長すぎる
ポート名を指定してください	引数に指定できるポート名ではなかった
引数に使用できない文字が含まれています	引数に使用できない記号が含まれていた

例：

set port com1

カレントポートにシリアルポート'com1'を指定

set port ml2

カレントポートにメールポート'ml2'を指定

set port eth0

カレントポートにイーサネットポート'eth0'を指定

関連項目： (ローカルコマンド全般)

show port

機能： 引数で指定されたポートの設定情報およびステータスを表示する

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： `show port {port_name} [port_name...]`

引数にはポート名を指定する。ポート名はスペースで区切って複数指定可能。

説明：

引数で指定されたポートの設定情報を表示する。

引数には以下の名前を指定する事ができる。

- シリアルポート：com1,com2

実行の際は、現在の設定に加え、送受信バイト数と信号線のステータスが表示される。

- メールポート：ml0,ml1,ml2,ml3,ml4,ml5,ml6,ml7

- イーサネットポート：eth0

実行の際は、現在の設定に加え、送受信バイト数などのステータスや、DHCP で取得した IP アドレス等を表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
ポート名を1つ指定してください	引数の数が1個以外
指定できない引数です	引数に指定できるポート名では無かった
引数に使用できない文字が含まれています	引数に使用できない記号が含まれていた

例：

```
rmc@myrmc> show port com2      ←シリアルポートの設定情報表示
set speed 9600
set parity none
set csize 8
set flowcontrol software
set stopbits 1
;
set ppp-username aaa "#;:$~| 123-456-2345
set exec
transmit:83 receive:0 RTS|DTR
```

```
rmc@myrmc> show port ml0      ←メールポートの情報表示
max-nmr-of-chars 64000
inactivity-timer 10
set no errors-to
set no mail-encryption
hook fl0
mailto rms@routrek.co.jp
```

関連項目：

set spy

機能： 引数で指定されたポートの単方向の接続を行う。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set spy {port#0} {port#1}**

'port#0'にはデータ出力側、'port#1'にはデータ受信側のポート名を指定する。

説明：

引数で指定された'port#0'から'port#1'への接続を行う。

'port#0'および'port#1'に指定できる値については下表を参照。

spy コマンドに引数として指定可能なポート

'port#0'	'port#1'	備考・関連コマンド
com1, com2	ml0, ml1...ml7	hook でのフィルタ設定が適用される。メール送信時の Subject は"Target message"・
com1, com2	com1, com2	com1 の入力を com2 に表示したい場合等に用いる
rmc	ml0, ml1...ml7	RMC の設定情報やキープアライブ情報 (set keep-alive-time)
target1, target2	ml0, ml1...ml7	com1, com2 に接続される監視対象装置の各種情報 (set network-info-time, set target-check, set connect-log)。

第 2 引数にメールポートを指定した場合、送信されるメールはそれぞれのメールポートの設定に従い、分割される。また、'port#0'に com1 または com2 を指定した場合は'port#1'で指定されたメールポートに指定されたフィルタ設定に従って通過する文字列が決定される。メールポートにフィルタの設定が無い場合は com1 または com2 からの出力の全てが送信される。'com2'が'set exec'または'set modem'状態の時、'port#1'に'com2'を指定する事は出来ない。なお、デフォルトで spy rmc ml0, spy target1 ml0 が設定されている。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に使用できない記号が含まれていた
<メールポート名>に宛先が設定されていません	引数で指定したメールポートに宛先が設定されていない
<ポート名> と <ポート名> の接続はできません	設定できない組み合わせのポートが引数に指定された

メッセージ	発生原因
接続元に<ポート名>は指定できません	第1引数に設定できないポート名が指定された
接続先に<ポート名>は指定できません	第2引数に設定できないポート名が指定された
<引数文字列>はポート名ではありません	引数文字列が引数に指定できるポート名では無い
<ポート名>はモデムモードになっています 'set no modem'コマンドで先にモデムモードを解除して下さい	引数に指定されたシリアルポートがモデムモードになっているため spy 設定出来ない
<ポート名>は端末モードになっています 'set no exec'コマンドで先にモデムモードを解除して下さい	引数に指定されたシリアルポートが端末モードになっているため spy 設定出来ない
その接続は既に設定されています	引数で指定された組み合わせは既に spy 設定済み状態である

例：

```
set spy com1 com2
```

com1 の出力を com2 に接続された端末に出力

```
set spy com1 ml0
```

com1 の出力をメールポート ml0 の宛先へ送信

```
set spy target1 ml0
```

仮想ポート target1 (com1 の情報) の出力をメールポート ml0 の宛先へ送信

関連項目：set no spy, show spy, set mailto, set max-nmr-of-chars, set [no] inactivity-timer, hook

set no spy

機能： 設定されている'set spy'コマンドによる接続を解除する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set no spy {port#0} [port#1]**

'port#0'および'port#1'には現在接続されているポート名を指定する。

説明：

'set spy'コマンドによる接続を解除する。

引数の **port#0** 及び **port#1** は既に'set spy'コマンドにより接続されているポート名を指定する。
port#0 はデータ出力側のポート名、**port#1** はデータ受信側のポート名を指定する。

port#1 は省略することが可能で、省略された場合データ出力側が **port#0** に一致する接続は全て解除される。

既に'set port'コマンドによって接続されているポートは、'show spy'コマンドにより確認することができる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に使用できない記号が含まれていた
2つのポートを指定してください	引数の数が2個以外だった
<引数文字列>はポート名ではありません	第1または第2引数で存在しないポート名が指定された
<ポート名>は指定出来ません	指定できないポート名が引数に指定された
<ポート名>と<ポート名>は接続されていません	引数で指定された組み合わせのポートは接続されていない

例：

set no spy com1 com2

com1 から com2 への接続を解除

set no spy com1 ml0

com1 からめ-ルポ-と ml0 への接続を解除

set no taregt1

仮想ポート target1 を情報元とする接続を全て解除

関連項目： set spy, show spy

show spy

機能： 設定されている'**set spy**'コマンドによる接続を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： **show spy**

説明：

'**set spy**'コマンドによる接続の状態を表示する。

'**set spy**'コマンドによる接続が無い状態では、当コマンドを実行しても何も表示されない。

当コマンドで表示される接続設定は'**set no spy**'コマンドで解除する事ができる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるのみでエラーとはならない。

例：

```

rmc@myrmc> show spy      ←コマンド入力
set spy com1 ml1
set spy com1 ml2
set spy com1 ml3
set spy rmc ml0
set spy target2 ml0
ok

```

関連項目： **set [no] spy**

set user-name

機能： RMC にログインするためのログインアカウントを追加作成する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set user-name {login_name} [Password]**

第 1 引数には新しく設定したいログイン ID を指定する

第 2 引数にはログインパスワードを指定する

説明：

RMC にログインするためのログインアカウントを作成する。

ログイン名に設定できる文字列は 12 文字以内とし、許される文字は、先頭はアルファベットのみ、2 文字目以降はアルファベットまたは数字またはハイフンを使用することが出来る。2 バイト文字コードは使用することは出来ない。第 2 引数でパスワードを指定した場合、そのパスワードがログインパスワードとして設定される。パスワードが指定されなかった場合はパスワードは設定されない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用できない記号が含まれている
引数にログイン ID を 1 つ指定してください	引数が 1 つではなかった
そのユーザ名は設定できません	引数で指定されたログイン名の先頭文字がアルファベットではないか 2 文字目以降にアルファベット、数字、ハイフン以外の文字が含まれている
ユーザー<ユーザ名>は指定できません	引数で指定されたログイン名がシステムで予約された名前だった
ユーザ名は 1 2 文字以内を指定してください	引数で指定されたログイン名の文字数が 12 文字を超えていた

例：

```
set user-name rmc0001
```

ログイン名'rmc001'を追加

```
set user-name a0101
```

ログイン名を'a0101'に変更

```
set user-name rmc002 abcd
```

ログイン名'rmc'を追加。同時にそのパスワードを'abcd'に設定

関連項目： set password , set no user-name , show user-names

set no user-name

機能： RMC 内のログインアカウントの削除。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set no user-name {login_name}**
 引数には削除したいログイン名を指定する。

説明：

'set user-name' コマンドで作成された RMC のログインアカウントを削除する。ユーザ名 "rmc" および "rms" はシステムで予約されており、削除はできない。このアカウントを無効にしたい場合は、"**set password2 rmc ***" を実行して無効なパスワードを設定するとよい。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用できない記号が含まれている
引数にログイン ID を 1 つ指定してください	引数が 1 つではなかった
そのユーザ名は指定できません	引数で指定されたログイン名の先頭文字がアルファベットではないか 2 文字目以降にアルファベット、数字、ハイフン以外の文字が含まれている
ユーザー<ユーザ名>は削除できません	引数で指定されたログイン名がシステムで予約された名前だった
ユーザー<ユーザ名>は存在しません	引数で指定されたログイン名が存在しない
ユーザ名は 1 2 文字以内を指定してください	引数で指定されたログイン名の文字数が 12 文字を超えていた

例：

```
set no user-name rmc0001
    ログイン名'rmc001'を削除
set no user-name a0101
    ログイン名を'a0101'削除
```

関連項目： set password , set user-name , show user-names

show user-names

機能： RMC のログインアカウントの表示。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： show user-names

説明：

RMC のログインアカウントを一覧表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
このコマンドに引数は必要ありません	・必要の無い引数が指定された

例：

```
show user-name
rnc
rnc001
a0101
ok
```

関連項目： set user-name

set user-password

機能： RMC のログインアカウントのパスワードを変更する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set user-password {login_name} {password}`
 '`login_name`'にはパスワードを変更したいユーザ名、
 '`password`'には設定したいパスワード文字列を指定する。

説明：

引数で指定したログインアカウントに指定したパスワードを設定する。
 ここで指定するログインアカウントは既に存在しているアカウントを指定する。
 新規にログインアカウントを作成する場合は'`set user-name`'コマンドを使用する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数が足りません	引数の数が 2 個未満
指定されたユーザ名が存在しません	存在しないユーザ名が引数で指定された

例：

```
set user-password rmc0001 12345
  ログインアカウント'rmc0001'にパスワード'12345'を設定

set user-password guest guest@@
  ログインアカウント'guest'にパスワード'guest@@"を設定
```

関連項目： `set user-name`

set prompt

機能： 実行確認のプロンプトを有効にする

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set prompt**

説明：

当コマンドを実行後は、確認の必要なコマンドについて実行確認のプロンプトが表示される。
 'set no prompt'を実行する事で、実行確認のプロンプトは表示されなくなる。
 当コマンドによる設定状態は'write memory'コマンドによる保存対象外であり、RMC へのログ
 イン直後は必ず'set prompt'された状態となっている。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれてい ます	引数の中に記号が含まれている *注
その引数は指定できません	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数は無いが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるだけでエラー
 とはならない

例：

```
set prompt          ←実行確認プロンプトを有効にする
write memory
以前の保存された設定情報は上書きされます。
実行しますか。 [y]es/[n]o:    ←ユーザによる入力进行待つ
```

関連項目： set no prompt, reload, shutdown, upgrade, set address, set modem, set exec, set speed,
 write memory, write erase

set no prompt

機能： 実行確認のプロンプトを無効にする

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set no prompt`

説明：

当コマンドを実行する事で、以降は実行確認のプロンプトは表示されずに実行される。実行確認のプロンプトを有効とするにはコマンド'`set prompt`'を実行する。

当コマンドによる設定状態は'`write memory`'コマンドによる保存対象外であり、RMC へのログイン直後は必ず'`set prompt`'された状態となっている。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている *注
その引数は指定できません	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるだけでエラーとはならない

例：

```
set no prompt      ←実行確認プロンプトを無効にする
write memory
ok                 ←確認は行われずに実行される
```

関連項目： `set prompt`, `reload`, `shutdown`, `upgrade`, `set address`, `set modem`, `set exec`, `set speed`, `write memory`, `write erase`

show users

機能： ログインしているユーザや経過時間を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： `show users`

説明：

当コマンドを実行すると RMC にログインしているユーザと、そのログイン経過時間を表示する。

表示される情報は、RMC の稼働時間およびログインしているユーザの接続元端末のアドレスまたはドメイン名、ユーザのログイン時間などが表示される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるだけでエラーとはならない

例：

```

rmc@myrmc> show users          ←コマンド入力
5:04pm up 2 days, 34 min,  1 user,  load average: 0.00, 0.00, 0.00
USER   TTY   FROM           LOGIN@  IDLE   JCPU   PCPU   WHAT
rmc    tty0  192.168.1.10  5:03pm  1.00s  0.76s  0.05s  -rmc_shell

```

関連項目：

show configuration

機能： RMC 起動時の設定情報を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `show configuration [system|serial|ether|mail|mailport|ip]`
引数には表示したい対象セクションを指定する。

説明：

当コマンドは'write memory'コマンドにより保存された設定情報を表示する。'write memory'コマンドを使用しなかった場合、または'write erase'コマンド実行後は工場出荷時の設定情報を表示する。

引数を指定した場合、指定された対象セクションのみを表示する。引数を指定しなかった場合は全てのセクションを表示する。

表示される設定情報

共通項目

表示内容	関連コマンド
設定を保存した日時と保存時の RMC ソフトウェアバージョン	

シリアルポート関連(引数'serial'指定時)

表示内容	関連コマンド
シリアルポート設定情報	set speed set parity set csize set flowcontrol set stopbits
監視対象装置のログインパスワード 監視対象装置のイネーブルパスワード	set target-login-password ※ set target-enable-password ※
ネットワークインフォ設定時間	set network-info-time
ターゲットチェック設定情報	set target-check
コネクログ設定情報	set connect-log
監視対象装置種別情報	set target-type
監視対象装置スクリプト情報	set script login set script network-info set script target-check
モデム接続設定情報	set modem set exec
PPP 接続アカウント設定情報	set ppp-username ※ set ppp-server

イーサネットポート関連(引数'ether'指定時)

表示内容	関連コマンド
イーサネットポート設定情報	set address set broadcast-address set dhcp

メールサービス関連(引数'mail'指定時)

表示内容	関連コマンド
POP 設定情報	set pop-username ※ set pop-interval set pop-before-smtp
フィルタ設定情報	set filter-list
キープアライブ時間設定情報	set keep-alive-time
ネットワーク情報時間設定情報	set network-info-time
監視対象装置の生存確認の ON/OFF 情報	set target-check
メールサービス ON/OFF の設定情報	set mail-service
コマンドメールの認証 ON/OFF の設定情報	set mail-certification
メールリレーホスト設定情報	set mail-relayhost
メールの送信元アドレス設定情報	set mail-origin

メールポート関連(引数'mailport'指定時)

表示内容	関連コマンド
メールポート設定情報	set inactivity-timer set max-nmr-of-chars set max-nmr-of-lines set mailto set errors-to set mail-encryption hook

IP サービス関連(引数'ip'指定時)

表示内容	関連コマンド
ドメインネーム設定情報	set domain-name
RMC 自身のホスト名の設定情報	set hostname
名前解決リスト設定情報	set hosts
ネームサーバ設定情報	set name-servers
NTP サーバ設定情報	set ntp-server

システム設定関連(引数'system'指定時)

表示内容	関連コマンド
ssh 設定情報	set ssh-protocol set ssh-authentication
アクセスリスト	set access-list
コネクトログ設定状態	set connect-log
エスケープキャラクタ設定情報	set escape-character
RMC タイムアウト設定情報	set exec-timeout
spy 接続の設定情報	set spy
ログイン ID 設定情報	set user-name ※
イネーブルパスワード情報	set enable-password ※

※:これらのコマンドは、設定パスワードが暗号化されて表示される。暗号化したパスワードを設定する際は、"set enable-password2"のように末尾に"2"を付加したコマンドが利用される。

メッセージ:

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
無効な引数です	無効なセクション名が引数に指定された

例:

```
show configuration
show configuration system
```

関連項目: show running-config, copy

show running-config

機能： RMC の現在の設定情報を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `show running-config [system|serial|ether|mail|mailport|ip]`
 引数は表示したいセクション名を指定する。

説明：

当コマンドは RMC の現在の設定情報を表示する。

引数を指定した場合は、その対象セクションのみを表示する。引数を指定しない場合は全てのセクションを表示する。

表示される設定情報

共通項目

表示内容	関連コマンド
現在の RMC ソフトウェアバージョン	

シリアルポート関連(引数'serial'指定時)

表示内容	関連コマンド
シリアルポート設定情報	set speed set parity set csize set flowcontrol set stopbits
監視対象装置のログインパスワード	set target-login-password ※
監視対象装置のイネーブルパスワード	set target-enable-password ※
ネットワークインフォ設定時間	set network-info-time
ターゲットチェック設定情報	set target-check
コネクトログ設定情報	set connect-log
監視対象装置種別情報	set target-type
監視対象装置スクリプト情報	set script login set script network-info set script target-check
モデム接続設定情報	set modem set exec
PPP 接続アカウント設定情報	set ppp-username ※ set ppp-server

イーサネットポート関連(引数'ether'指定時)

表示内容	関連コマンド
イーサネットポート設定情報	set address set broadcast-address set dhcp

メールサービス関連(引数'mail'指定時)

表示内容	関連コマンド
POP 設定情報	set pop-username ※ set pop-interval set pop-before-smtp
フィルタ設定情報	set filter-list
キープアライブ時間設定情報	set keep-alive-time
ネットワーク情報時間設定情報	set network-info-time
監視対象装置の生存確認の ON/OFF 情報	set target-check
メールサービス ON/OFF の設定情報	set mail-service
コマンドメールの認証 ON/OFF の設定情報	set mail-certification
メールリレーホスト設定情報	set mail-relayhost
メールの送信元アドレス設定情報	set mail-origin

メールポート関連(引数'mailport'指定時)

表示内容	関連コマンド
メールポート設定情報	set inactivity-timer set max-nmr-of-chars set max-nmr-of-lines set mailto set errors-to set mail-encryption hook

IP サービス関連(引数'ip'指定時)

表示内容	関連コマンド
ドメインネーム設定情報	set domain-name
RMC 自身のホスト名の設定情報	set hostname
名前解決リスト設定情報	set hosts
ネームサーバ設定情報	set name-servers
NTP サーバ設定情報	set ntp-server

システム設定関連(引数'system'指定時)

表示内容	関連コマンド
ssh 設定情報	set ssh-protocol set ssh-authentication
アクセスリスト	set access-list
コネクトログ設定状態	set connect-log
エスケープキャラクタ設定情報	set escape-character
RMC タイムアウト設定情報	set exec-timeout
spy 接続の設定情報	set spy
ログイン ID 設定情報	set user-name ※
イネーブルパスワード情報	set enable-password ※

※:これらのコマンドは、設定パスワードが暗号化されて表示される。暗号化したパスワードを設定する際は、“set enable-password2”のように末尾に“2”を付加したコマンドが利用される。

メッセージ:

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている

例:

```
show running-config
show running-config mail
```

関連項目 : show configuration, copy

show log

機能： RMC 上に蓄えられている各種ログを表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `show log {com1|com2|mail|login|ppp|rmc} [N]`

第 1 引数には 'com1', 'com2', 'mail', 'login', 'ppp', 'rmc' のいずれかの文字列を指定する。

第 2 引数の 'N' は省略可であり表示行数を指定することができる。

'N' を指定すると、蓄積されている最新のログから 'N' 行を表示する。

説明：

`show log com1` 及び `show log com2` は監視対象装置からの出力を表示する。蓄積量は約 100Kbytes で、100Kbytes を超えた場合、古い順に破棄れる。

`show log mail` はメール送受信ログを表示する。

`show log login` は rmc へのログインのログを表示する。

`show log ppp` はダイヤルアップまたは着信による PPP 接続のログを表示する。

`show log rmc` は RMC 自身の各種ログを表示する。ログの内容は、シリアルデータのオーバーフロー、メール受信時のエラー、メール送信の失敗と PPP への自動接続、ディスク空き領域不足の警告が表示される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
ログファイル名を指定してください。	引数が無かった
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 引数の表示行数が数字ではない 引数の数が多すぎる
ファイルがロックされています	'show log com1 (または com2)' においてログファイルが他のプロセスによってロックされている
指定できない引数です	ログ名を示す第 1 引数に不明なログ名が指定された

例：

`show log com1`

com1 に接続された監視対象装置の出力ログの表示

`show log mail`

メール送受信ログの表示

`show log login`

ログインログの表示

`show log ppp`

PPP ログの表示

`show log rmc`

RMC 自身に関するログの表示

関連項目：

show tech-support

機能： サポートに必要な各種ログなどの表示を行う

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **show tech-support [N]**

引数[n]を指定した場合、各ログの表示を最大 n 行に押さえる。
指定しない場合、n=50。

説明：

以下のコマンドを実行した結果を表示する。

show version, show date, show running-config,
show key-list,
show log mail, show log ppp, show log rmc,
show port com1, show port com2, show port eth0

ユーザの機密情報を隠蔽する為、出力情報を表示する際に以下の変換が施される。

- show running-config, show port において、以下の項目は <removed> で表示する
 - set ppp-username <removed>
 - set target-login-password <removed>
 - set target-enable-password <removed>
 - set mailto <removed>
 - set errors-to <removed>
- show log mail において、宛先メールアドレスは<removed>にする
- show log rmc において、公開鍵削除時の Key ID を<removed>にする
- show log ppp において、宛先電話番号は <removed> で表示する

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> • 第 2 引数の表示行数が数字ではない • 引数が 3 個以上
ファイルがロックされています	'show log com1/com2'においてログファイルが他のプロセスによってロックされている

例：

```
show tech-support
show tech-support 10
```

関連項目： show version, show date, show running-config, show log, show port

show memory

機能： RMC のメモリの使用状況を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： show memory

説明：

物理メモリ総量と、その使用量、空き容量、および共有メモリとバッファメモリを表示する

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるだけでエラーとはならない

例：

```
[rnc@myrnc]# show memory
                total:   used:   free:  shared: buffers:  cached:
Mem:  15159296 10141696 5017600 8425472 1433600 4476928
Swap:           0         0         0
MemTotal:      14804 kB
MemFree:       4900 kB
MemShared:     8228 kB
Buffers:       1400 kB
Cached:        4372 kB
SwapTotal:     0 kB
SwapFree:      0 kB
ok
```

関連項目：

show version

機能： RMC のハードウェアバージョン、MAC アドレス、メモリ総量、ソフトウェアバージョン、稼働時間、CPU 負荷状況などを表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： show version

説明：

RMC のハードウェアバージョン、MAC アドレス、メモリ総量、ソフトウェアバージョン、稼働時間、CPU 負荷状況などを表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	・引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるだけでエラーとはならない

例：

```
[rmc@myrmc]# show version
RouteMagic Controller.
Copyright (C) 2002 Routrek Networks, Inc. All Rights Reserved.

Hardware model   : RMC-M2-01
Loader version   : CBA1.00

Memory           : 63568 kB (29408 kB free)
MAC address      : 00:03:45:00:05:46

Software version : 2.0.0RC4

 6:13pm  up 53 min, load average: 0.00, 0.00, 0.00
ok
```

関連項目：

set csize

機能： シリアルポートのキャラクタサイズの設定。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set csize {5|6|7|8}**

引数にはキャラクタサイズを指定する。

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com1'などして設定対象となるシリアルポートを指定する。

カレントシリアルポートのキャラクタサイズを設定する。

引数は 5,6,7,8 のいずれかの数字を指定する事で、それぞれ 5 ビット、6 ビット、7 ビット、8 ビットのキャラクタ長に設定される。

com2 ポートにおいて'set exec'、または'set modem'状態の時は 8 ビットに固定される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
コマンド set port でシリアルポートを選択してください	カレントポートにシリアルポートを設定していない
引数の値が異常です。	引数に 5,6,7,8 以外の数字または文字を指定した
set exec 時には"8"固定です	set exec 状態の com2 ポートに対して 8 以外のキャラクタ長を指定した
set modem 時には"8"固定です	set modem 状態の com2 ポートに対して 8 以外のキャラクタ長を指定した

例：

```
set port com1
```

```
set csize 6
```

シリアルポート com1 のキャラクタ長を 6 ビットに設定

```
set port com2
```

```
set csize 8
```

シリアルポート com2 のキャラクタ長を 8 ビットに設定

関連項目： set port, set [no] modem, set [no] exec, set flowcontrol, set parity, set speed, set stopbits

set flowcontrol

機能： シリアルポートのフロー制御を設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set flowcontrol {none|software|hardware}**
引数はフローコントロールの種類を指定する。

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com1'などして設定対象となるシリアルポートを指定する。

カレントシリアルポートのフロー制御を設定する。

引数に'none'を指定すると、フロー制御無し、'software'を指定するとソフトウェア制御 (XON/XOFF)、'hardware'を指定するとハードウェア制御 (RTS/CTS) となる。

com2 ポートにおいて'set exec'状態では'software'、また'set modem'状態では'hardware'に固定される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
コマンド set port でシリアルポートを選択してください	カレントポートにシリアルポートを設定していない
引数の値が異常です	引数に'none','software','hardware'以外の文字列を指定した
set exec 時には"software"固定です	set exec 状態の com2 ポートに対して'software'以外を指定した
set modem 時には"hardware"固定です	set modem 状態の com2 ポートに対して'hardware'以外を指定した

例：

```
set port com1
```

```
set flowcontrol none
```

シリアルポート com1 のフロー制御を「無し」に設定

```
set port com2
```

```
set flowcontrol software
```

シリアルポート com2 のフロー制御をソフトウェアに設定

関連項目： set port, set [no] modem, set [no] exec, set csize, set parity, set speed, set stopbits

set parity

機能： カレントシリアルポートのパリティを設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set parity {none|odd|even}**

引数は'none'、'odd'、'even'のいずれかの文字列を指定する。

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com1'などして設定対象となるシリアルポートを指定する。

カレントシリアルポートのパリティを設定する。

引数に'none'を指定すると、パリティチェック無し、'odd'を指定すると奇数パリティ、'even'を指定すると偶数パリティを設定する。

com2 ポートにおいて'set exec'、または'set modem'状態では'none'に固定される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
コマンド set port でシリアルポートを選択してください	カレントポートにシリアルポートを設定していない
引数の値が異常です	引数に'none','software','hardware'以外の文字列を指定した
set exec 時には"none"固定です	set exec 状態の com2 ポートに対して'none'以外を指定した
set modem 時には"none"固定です	set modem 状態の com2 ポートに対して'none'以外を指定した

例：

```
set port com1
```

```
set parity none
```

シリアルポート com1 のパリティチェックを「無し」に設定

```
set port com2
```

```
set parity even
```

シリアルポート com2 のパリティを「偶数」に設定

関連項目： set port, set [no] modem, set [no] exec, set csize, set flowcontrol, set speed, set stopbits

set speed

機能： カレントシリアルポートの通信速度の設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set speed {2400|4800|9600|19200|38400|57600|115200}**

引数は'2400'、'4800'、'9600'、'19200'、'38400'、'57600'、'115200'のいずれかの数字を指定する。

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com1'などして設定対象となるシリアルポートを指定する。

カレントシリアルポートの通信速度の設定する。

引数に指定した数字に対応した速度（単位は b p s）を設定する。

com2 ポートから直接、または modem 経由でログインしている最中に当コマンドを使用した場合、一旦接続を切った後に再接続する必要がある。その際 com2 ポートへ直接接続によるログインの場合は接続元端末の速度を rmc の設定速度に合わせる必要がある。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
コマンド set port でシリアルポートを選択してください	カレントポートにシリアルポートを設定していない
引数の値が異常です	引数に、下記以外の文字列を指定した '2400', '4800', '9600', '19200', '38400', '57600', '115200'

例：

```
set port com1
```

```
set speed 9600
```

シリアルポート com1 の通信速度を 9600bps に設定

```
set port com2
```

```
set speed 38400
```

シリアルポート com2 の通信速度を 38400bps に設定

関連項目： set port, set [no] modem, set [no] exec, set csize, set flowcontrol, set parity, set stopbits

set stopbits

機能： カレントシリアルポートのストップビット長を設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set stopbits {1|2}**

引数は'1','2'のいずれかの数字を指定する。

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com1'などして設定対象となるシリアルポートを指定する。

カレントシリアルポートのストップビット長の設定をする。

引数に'1'を指定した場合、ストップビット長は 1 ビット、'2'を指定した場合、ストップビット長は 2 ビットとなる。

com2 ポートにおいて'set exec'、または'set modem'状態では'1'に固定される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
コマンド set port でシリアルポートを選択してください	カレントポートにシリアルポートを設定していない
引数の値が異常です	引数に '2400', '4800', '9600', '19200', '38400' 以外の文字列を指定した
set exec 時には"1"固定です	set exec 状態の com2 に対して'1'以外のストップビット長を指定した
set modem 時には"1"固定です	set modem 状態の com2 に対して'1'以外のストップビット長を指定した

例：

```
set port com1
```

```
set stopbits 1
```

シリアルポート com1 のストップビット長を 1 ビットに設定

```
set port com2
```

```
set stopbits 2
```

シリアルポート com2 のストップビット長を 2 ビットに設定

関連項目： set port, set [no] modem, set [no] exec, set csize, set flowcontrol, set parity, set speed

set exec

機能： カレントシリアルポートをローカルコンソールとして利用できるようにする。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com2)、特権

書式： **set exec**

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com2'として設定対象となるシリアルポートを指定する。(現バージョンでは com2 限定のコマンド)

当コマンドを実行するとカレントシリアルポートがローカルコンソールとしてログイン可能になる。

この時カレントシリアルポートの設定は以下のように限定される。

転送速度： 'set speed'コマンドによる設定に従う

転送文字サイズ： 8 ビットに固定 ('set csize'コマンドによる設定は無効)

フロー制御： ソフトウェア制御に固定 ('set flowcontrol'コマンドによる設定は無効)

パリティ： 「無し」に固定 ('set parity'コマンドによる設定は無効)

ストップビット長： 1 に固定 ('set stopbits'コマンドによる設定は無効)

イーサネット経由で RMC にログインできない場合に、当コマンドでシリアルポートをローカルコンソールにする事で、シリアルポート経由でのログインが可能になる。

また、当コマンドと同等の機能がソフトウェアスイッチの「3」にも割り当てられている。(ソフトウェアスイッチで com2 をローカルコンソールにした場合、転送速度が 9600bps となる)

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
com2 ポートを指定してください	カレントポートが'com2'に設定されていない
引数が多すぎます	引数が 1 個以上指定された

例：

set exec

関連項目： set port, set [no] modem, set no exec, set csize, set flowcontrol, set parity, set speed, set stopbits

set no exec

機能： カレントシリアルポートのローカルコンソールとしての利用を停止する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com2)、特権

書式： **set no exec**

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com2'として設定対象となるシリアルポートを指定する。(現バージョンでは com2 限定のコマンド)

当コマンドを実行するとカレントシリアルポートのローカルコンソールとしての設定が解除され、カレントシリアルポートからの直接ログインが出来なくなる。

'set exec'コマンドを実行した際に、カレントシリアルポートの設定は以下のように変更されるが、'set no exec'コマンドを実行しても、'set exec'コマンド実行前の状態に戻らず、設定は継続される。

転送速度：'set speed'コマンドによる設定に従う

転送文字サイズ：8 ビットに固定 ('set csize'コマンドによる設定は無効)

フロー制御：ソフトウェア制御に固定 ('set flowcontrol'コマンドによる設定は無効)

パリティ：「無し」に固定 ('set parity'コマンドによる設定は無効)

ストップビット長：1 に固定 ('set stopbits'コマンドによる設定は無効)

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
com2 ポートを指定してください	カレントポートが'com2'に設定されていない

例：

```
set no exec
```

関連項目： set port, set [no] modem, set exec, set csize, set flowcontrol, set parity, set speed, set stopbits

set modem

機能： カレントシリアルポートに接続されたモデムの種類を指定し、モデムによる発信、着信が可能な状態にする。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com2)、特権

書式： `set modem [modem_name] [tone|pulse|none] [modem_init_string]`

第 1 引数はモデム名を指定する。省略時は"generic"。

第 2 引数はダイアル方法を指定する。tone(トーン回線)、pulse(パルス回線)、none(指定なし:ISDN 回線等)のいずれかの文字列を指定する。省略時は"tone"。

第 3 引数はモデム初期化文字列(AT コマンド)を指定する。モデム名が"custom"の時に限り指定可能。

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com2'として設定対象となるシリアルポートを指定する。(現バージョンでは com2 限定のコマンド)

当コマンドを実行すると com2 ポートに接続されたモデムを通しての発着信を行う事の出来る状態になり、ローカルコンソールとしての利用は出来なくなる。ローカルコンソールとして使用する場合には'set exec'コマンドを実行する。指定可能なモデム名については、リリースノートを参照。

なお、モデムからの PPP 発信(PPP 接続によるメール送信)を行うためには set ppp-username コマンドを、モデムからの PPP 受信を行う場合には set ppp-server コマンドも実行しておく必要がある。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
com2 ポートを指定してください	カレントポートが'com2'に設定されていない
ダイアル方法とモデム初期化文字列を指定してください	モデム名が"custom"なのに、モデムの初期化文字列が指定されていない。
モデム名が"custom"の場合に限り、モデムの初期化文字列を指定できます	モデム名が"custom"以外なのに、モデムの初期化文字列を第 3 引数に指定した。
引数が多すぎます	
引数が異常です	
未対応のモデム名<モデム名>が指定されています	
未対応のダイアル方法 <ダイアル方式>が指定されています	ダイアル方法に"tone", "pulse", "none"以外が指定された

例：

set modem

標準のモデム設定(**generic**)と、ダイヤル方法(トーン)を指定する。

set modem generic pulse

ダイヤル方法をパルスに指定する。

set custom tone ATX3

モデムの初期化文字列に"ATX3" (ダイヤルトーンの検出をしない)を指定する。

関連項目： **set port, set no modem, set [no] exec, set cszize, set flowcontrol, set parity, set speed, set stopbits, set [no] ppp-username, set [no] ppp-server**

set no modem

機能： カレントシリアルポートのモデム接続設定を解除する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com2)、特権

書式： **set no modem**

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com2'として設定対象となるシリアルポートを指定する。(現バージョンでは com2 限定のコマンド)

当コマンドを実行するとカレントシリアルポートのモデムの接続設定が解除され、モデムを介しての発信、着信は出来なくなる。

'set modem'コマンドを実行した際に、カレントシリアルポートの設定は以下のように変更されるが、'set no modem'コマンドを実行しても、'set modem'コマンド実行前の状態に戻らず、設定は継続される。(以降の設定変更は可能)

転送速度：'set speed'コマンドによる設定に従う

転送文字サイズ：8 ビット

フロー制御：ハードウェア制御

パリティ：「無し」

ストップビット長：1

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
com2 ポートを指定してください	カレントポートが'com2'に設定されていない
引数が異常です	1 個以上の引数が指定された

例：

set no modem

関連項目： set port, set modem, set [no] exec, set csize, set flowcontrol, set parity, set speed, set stopbits

set ppp-username

機能： PPP 発信に必要なユーザ名、パスワード、電話番号を設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com2)、特権

書式： **set ppp-username {name} {password} {phone_number}**

第 1 引数は PPP 接続に使用するユーザ名を指定する。

第 2 引数は PPP 接続に使用するユーザ名に対応したパスワードを指定する。

第 3 引数は PPP ダイアルアップ先の電話番号を指定する。

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com2'として設定対象となるシリアルポートを指定する。(現バージョンでは com2 限定のコマンド)

引数の「ユーザ名」と「パスワード」はダイアルアップ先の ISP またはモデム、TA の設定に従った文字列を入力する。ユーザ名およびパスワードを無指定にしたい場合、" (シングルクォート)で記述する。なお、上記以外の目的でパスワードにクォート文字を含めることはできない。

電話番号には数字、ハイフン記号以外にアスタリスク'*'、番号記号'#'も使用することが出来る。

なお、実際に PPP 接続を行うためには、set modem コマンドも実行しておく必要がある。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	第 3 引数の中に、数字、'#'記号、'*'記号、'!'記号以外の文字が含まれている
パスワードにクォーテーションマークは使用できません	空白(", ")以外のクォーテーションがパスワードとして指定された。
引数が異常です	引数が 3 個未満または 4 個以上指定された
com2 ポートを指定してください	カレントポートが'com2'に設定されていない

例：

```
set ppp-username a0001 SS1225011!% 012-3456-7890
```

関連項目： set port, set modem, set [no] exec, set csize, set flowcontrol, set parity, set speed, set stopbits, set [no] ppp-server, show log ppp, ppp-on, ppp-off

set no ppp-username

機能： 引数で指定されたユーザ名の PPP 接続情報を削除する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com2)、特権

書式： **set no ppp-userme {name}**
 引数は削除したいユーザ名を指定する。

説明：

シリアルポートのローカルコマンド。あらかじめ、'set port com2'として設定対象となるシリアルポートを指定する。(現バージョンでは com2 限定のコマンド)

引数の「ユーザ名」は'set ppp-username'コマンドの第 1 引数で指定した「ユーザ名」を指定する。

当コマンド実行後は再び'set ppp-username'コマンドで PPP ダイアルアップ情報を設定するまで、PPP ダイアルアップ接続は利用できなくなる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
com2 ポートを指定してください	カレントポートが'com2'に設定されていない
set modem で未対応のモデム名 <モデム名> が指定されています	1 個以上の引数が指定された

例：

```
set no ppp-username a0001
ユーザ a0001 を削除
```

関連項目： set port, set modem, set [no] exec, set csize, set flowcontrol, set parity, set speed, set stopbits

set ppp-server

機能： 外部から RMC への PPP 接続を有効にする。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com2)、特権

書式： **set ppp-server {rmc_pppaddress} {client_pppaddress}**

第 1 引数は PPP 接続時の RMC の IP アドレスを指定する。

第 2 引数は PPP 接続時のクライアントの IP アドレスを指定する。

説明：

外部から RMC への PPP 接続を有効にする。

第 1 引数は PPP 接続時の RMC 側の IP アドレスを指定し、第 2 引数はクライアント側に与えられる IP アドレスを指定する。

RMC に PPP 接続する際のユーザ名、パスワードは、RMC のログインアカウントとそのパスワードになる。

なお、実際に PPP 接続を行うためには、**set modem** コマンドも実行しておく必要がある。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
com2 ポートを指定してください	カレントポートが'com2'に設定されていない
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> 引数の数が 2 個以外だった 引数の文字列の長さが 64 文字を超えていた
引数が IP アドレスではありません	引数のどちらかが IP アドレスでは無かった

例：

```
set ppp-server 192.168.0.11 192.168.0.12
```

PPP 接続時の RMC の IP アドレスとして'192.168.0.11'を指定、クライアントの IP アドレスとして'192.168.0.12'を指定

関連項目： **set no ppp-server** , **set [no] modem**

set no ppp-server

機能： 外部から RMC への PPP 接続を無効にする。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com2)、特権

書式： `set ppp-server`

説明：

外部から RMC への PPP 接続を無効にする。

当コマンド実行後は外部からモデム経由での PPP 接続は出来なくなる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
com2 ポートを指定してください	カレントポートが'com2'に設定されていない
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された

例：

`set no ppp-server`

関連項目： `set ppp-server` , `set [no] modem`

set connect-log

機能： **connect** コマンドの操作記録の送信許可を行う。

コマンド種類：ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set connect-log**

説明：

当コマンドの実行後、その対象シリアルポートに対して **connect** コマンドを使用した際に、その操作記録を **set spy target1/target2** コマンドにより接続されたメールポートに設定されたアドレス宛に送信する。メールの送信は、'**connect**'コマンドの開始と同時に始まり、'**connect**'コマンドの終了まで続く。送信されるメールは、'**max-nmr-of-chars**'と'**inactivity-timer**'の設定に従い、分割され送信される。この時メールポートに設定されたフィルターによるフィルタリングは行われず全ての出力文字が送信される。

対象シリアルポートと接続されたメールポートにアドレスが設定されていない場合や、設定されているアドレスが正しく無い場合にはメールが正しく送信されない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるのみでエラーとはならない。

例：

```
set spy target1 ml2    ←シリアルポート com1 の情報(操作ログ)を ml2 に送信する設定
set port com1         ←com1 をカレントポートに指定
set connect-log       ←コネクログ送信許可設定
connect com1          ←コネクと同時にコネクログの送信が開始される
```

関連項目： **connect**, **set max-nmr-of-chars**, **set inactivity-timer**, **set no connect-log**, **set spy**

set no connect-log

機能： **connect** コマンドの操作記録の送信を禁止する。

コマンド種類：ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set no connect-log**

説明：

カレントのシリアルポートに関して、コネクトログの送信を禁止する。

当コマンド実行後は **connect** コマンドを使用しても操作ログの送信は行われない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるのみでエラーとはならない。

例：

set no connect-log

関連項目： **connect**, **set connect-log**, **set spy**

set network-info-time

機能： 監視対象装置が収集したネットワーク情報の送信時刻を設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set network-info-time {h [,h]...} {m[,m]...}**

第 1 引数は時間を指定し、カンマで区切る事で複数の時間を指定できる。

第 2 引数は分を指定し、カンマで区切る事で複数の分を指定できる。

説明：

監視対象装置が収集したネットワーク情報を送信する時刻を設定する。

第 1 引数は時間を指定し、カンマで区切る事によって複数の時間を指定する事が出来る。

第 2 引数は分を指定し、カンマで区切る事によって複数の分を指定する事が出来る。

ネットワーク情報が送信される時刻は第 1 引数の時間と第 2 引数の分の組み合わせの全ての時刻に送信される。例えば、第 1 引数に'6,18'を指定し、第 2 引数に'0,30'を指定した場合、毎日 6:00、6:30、18:00、18:30 にネットワーク情報がメール送信される(Subject: "Network information")。

送信される宛先は'set spy'コマンドによって'target1'または'target2'と接続されたメールポートの宛先となる。この時そのメールポートに設定されたフィルタ機能は無効となる。

'set spy'による接続設定が無ければ、ネットワーク情報は送信されない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引数の数が 2 個以外 ・ 引数の長さが 100 文字を超えている
引数に誤りがあります	引数に数字とカンマ以外の文字が使用された
引数が不正です	引数の時または分が時刻の範囲を超えている

例：

set network-info-time 10 5

ネットワーク情報送信時刻を 10:05 に設定

set network-info-time 2,10,18 15

ネットワーク情報送信時刻を 2:15、10:15、18:15 に設定

関連項目： set spy, set no network-info-time

set no network-info-time

機能： ネットワーク情報の送信を停止する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： `set no network-info-time`

説明：

ネットワーク情報の送信を停止する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数が異常です	必要の無い引数が指定された

例：

`set no network-info-time`

関連項目： `set network-info-time`

set target-login-password

機能： 監視対象装置へログインするためのパスワードを設定する。

コマンド種類：ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set target-login-password {password}**

引数には設定したいパスワード文字列を指定する。

説明：

カレントポートのシリアルポートに接続された監視対象装置へログインするパスワードを設定する。

当コマンドは、監視対象装置自身にパスワード設定するものではなく、監視対象装置に設定されたパスワードを **RMC** に登録するためのものである。**RMC** はこのパスワードを使用し、監視対象装置の監視や情報収集を行う。

例：

```
set target-login-password abc123$
```

監視対象装置のログインパスワードとして「abc123\$」を登録

```
set target-login-password %##&
```

監視対象装置のログインパスワードとして「%##&」を登録

関連項目： **set no target-login-password**, **set [no] target-enable-password**

set no target-login-password

機能： 監視対象装置へログインするためのパスワードを削除する。

コマンド種類：ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： `set no target-login-password`

説明：

カレントのシリアルポートに接続された監視対象装置へのログインパスワードの登録を削除する。

当コマンドは監視対象装置自身のパスワードを削除するものではなく、監視対象装置にログインパスワード設定されていないことを RMC に登録するためのもの。以降 RMC は監視対象装置にはログインパスワードがかけられていないものとして接続を試みる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に記号が含まれている *注
このコマンドに引数は必要ありません	必要の無い引数が指定された

*注：本来引数は無いが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるのみでエラーとはならない。

例：

`set no target-login-password`

関連項目： `set target-login-password`, `set [no] target-enable-password`

set target-enable-password

機能： 監視対象装置で特権モードへ以降するためのパスワードを設定する。

コマンド種類：ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set target-enable-password {password}**

引数には登録したい監視対象装置の特権モードパスワード文字列を指定する。

説明：

カレントのシリアルポートに接続された監視対象装置の特権モードを使用するためのパスワードを設定する。

当コマンドは、監視対象装置自身のパスワード設定するものではなく、監視対象装置に設定された特権モードのパスワードを RMC に登録するためのものである。RMC はこのパスワードを使用し、監視対象装置の監視や情報収集を行う。

例：

```
set target-enable-password AbCd###
```

監視対象装置の特権モードパスワードとして「AbCd###」を登録

```
set target-enable-password %//%
```

監視対象装置の特権モードパスワードとして「%//%」を登録

関連項目： **set [no] target-login-password, set no target-enable-password**

set no target-enable-password

機能： 監視対象装置の特権モード移行するためのパスワードを削除する。

コマンド種類：ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： `set no target-enable-password`

説明：

カレントのシリアルポートに接続された監視対象装置の特権モードへ移行するためのパスワードの登録を削除する。

当コマンドは監視対象装置自身の特権モードパスワードを削除するものではなく、監視対象装置に特権モードパスワード設定されていないことを RMC に登録するためのもの。以降 RMC は監視対象装置には特権モードパスワードがかけられていないものとして接続、情報収集を試みる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	・引数に記号が含まれている *注
このコマンドに引数は必要ありません	・必要の無い引数が指定された

*注：本来引数は無いが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるのみでエラーとはならない。

例：

`set no target-enble-password`

関連項目： `set [no] target-login-password`, `set target-enable-password`

set target-check

機能： com ポートに接続された監視対象装置の定期生存検査を行う

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set target-check [N]**

引数 N は検査間隔を指定する。(単位は分)

説明：

カレントポートで指定されたシリアルポートに対して当コマンドを実行する事で、以降そのポートに接続された監視対象装置の生存チェックを定期的に行う。生存チェックにより監視対象装置が停止していると判断した場合は、'set spy'コマンドにより'target1'または'target2'と接続されたメールポートの宛先へ通知のメール(Subject:"Taarget not respond")を送信する。また監視対象装置が停止状態から稼動状態に復帰した場合にも、その旨を示す通知メール(Subject:"Target responds))を同メールポートへ送信する。監視対象装置にログインパスワードがかけられていた場合は、コマンド'set target-login-password'によってパスワードをあらかじめ RMC に登録しておく必要がある。

引数 N を指定した場合は、N (分) 間隔でチェックを行い、N が省略された場合、チェック間隔は 15 分となる。

監視対象装置がの定期チェックを停止するには、コマンド'set no target-check'を実行する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
5～600の数字を指定してください	引数 N の値が 5～600の間の数字ではなかった

例：

set target-check 5

関連項目： **set no target-check, set [no] target-login-password**

set no target-check

機能： com ポートに接続された監視対象装置の定期生存検査を停止する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： set no target-check

説明：

当コマンドを実行する事で、カレントポートのシリアルポートに接続された監視対象装置の生存チェックを停止する。再び監視対象装置の定期チェックを開始するには、コマンド'**set target-check**'を実行する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている

例：

```
set no target-check
```

関連項目： set target-check, set [no] target-login-password

set target-type

機能： com ポートに接続された監視対象装置の種類を指定する

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set target-type {cisco|custom}**
 引数は監視対象装置の種類を指定する。

説明：

カレントポートに接続されている監視対象装置の種類を指定する。工場出荷時のデフォルト設定は"cisco"。"custom"を設定した場合、**set script** コマンドで、生存確認やネットワーク情報取得のためのスクリプトをユーザ定義する必要がある

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が異常です	引数の数が 1 以外だった
コマンド set port でシリアルポートを指定してください	カレントポートにシリアルポートが指定されていない
<引数>は装置名ではありません	引数に'cisco','custom'以外が指定された

例：

```
set target-type custom
```

関連項目： **set [no] script**, **set [no] target-check**, **set [no] network-info-time**

set script

機能： 引数で指定されたスクリプトをユーザ定義する

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set script {login|network-info|target-check}**
 引数はユーザ定義する対象となるスクリプトを指定する。

説明：

引数で指定されたスクリプトをユーザ定義する。コマンドの起動後、スクリプトを入力し、CTRL-D で入力を終了する。なお、本コマンドは監視対象装置の種類(target-type)が"custom"の場合に限り実行可能。

スクリプトの種類は以下の通り：

login: コマンドメール実行時の監視対象装置へのログインスクリプト。

network-info: ネットワーク情報取得のためのスクリプト。

target-check: 生存確認のためのスクリプト(無指定時には、シリアルの信号線状態で生存確認を行う)。

スクリプト仕様：

スクリプトには RMC-監視対象装置間の操作の手順を定義します。

スクリプトは基本的には「受信待ち文字列-送信文字列」のペアからなり、それぞれは空白で区切られています。

例として、監視対象装置が Unix マシンの場合、ログインするための単純なスクリプトは、以下のようになります：

```
login: foo
Password: xxxx
```

このスクリプトでは、"login:"の受信待ちを行い、受信した場合ユーザー名"foo"+改行を送信します。次に、"Password:"の受信待ちを行い、受信した場合パスワード"xxxx"+改行を送信して正常終了します。

受信待ち文字列が受信できない場合は、タイムアウトエラーで終了します。(タイムアウトの初期値は 20 秒です)。

現実問題としては、上記のスクリプトは期待通りに動作しません。"login:"の受信待ちがタイムアウトしてしまいます。実際には、以下のスクリプトが必要です。

```
""
login: foo
Password: xxxx
```

このスクリプトは、最初のスクリプトとほとんど同じですが、最初に空文字列("")を受信待ちし(すなわち、受信を待たずに)空文字列+改行(すなわち改行のみ)を送信します。

改行を送信することで、ログインプロンプトが受信されるので、その後のスクリプトはタイムアウトすることなく正常に動作します。

期待する受信待ち文字列が受信できなかった場合に備え、「副送信文字列-副受信待ち文字列」を、受信待ち文字列の後にオプションとして追加することも可能です。

たとえば、以下のようなスクリプトになります:

```
""  
login:-logout-login: foo  
~~~~~  
Password: xxxx
```

※下線部が「副送信文字列-副受信待ち文字列」で、

「受信待ち文字列」「副送信文字列」「副受信待ち文字列」の順でそれぞれ'-'(ハイフン)で区切って記述します。

このスクリプトでは、まず"login:"の受信待ちを行います。もし、タイムアウトする前にログインプロンプトを受信できなければ、(すでにログイン済みの可能性を考慮して)副送信文字列の"logout"+改行を送信し、再度"login:"(副受信文字列)の受信待ちを行います。

スクリプト中で特殊な意味を持つ文字

'(シングルクォート):

空白を含む文字列を受信待ち/送信待ち文字列に含める場合は、文字列を'(シングルクォート)で囲んでください。

なお、空文字列の受信待ち(すなわち受信待ち行わずにすぐに送信する)や、空文字列の送信(改行を送信します)する場合は、" を指定します。

#(コメント):

で始まる行はコメントとして扱われます。受信待ち文字列として # から始まる文字列を指定する場合は、'(シングルクォート)で囲んで記述してください。

¥(エスケープシーケンス):

以下のエスケープシーケンスがサポートされています。それ以外の文字、たとえば '¥a' などが指定された場合は'a'と同様に処理されます。

¥b バックスペース文字を表します。

- ¥c 送信文字列の末尾に改行文字を追加しないようにします。
- このエスケープシーケンスは送信文字列の最後に置なければいけません。
たとえば、文字列 `hello¥c` は `hello` という文字列だけを送信し、末尾に改行をつけません。(受信待ち文字列では使えません)
- ¥d 1 秒のディレイを表します。(受信待ち文字列では使えません)
- ¥K ブレーク信号を送信します。(受信待ち文字列では使えません)
- ¥n 改行文字を表します。
- ¥N 空 (null) 文字を表します。¥0 も同様です。(受信待ち文字列では使えません)
- ¥p 0.01 秒のディレイを表します。(受信待ち文字列では使えません)
- ¥r キャリッジリターン文字を表します。
- ¥s 文字列中のスペース文字を表します。
- 'HI TIM' と HI¥sTIM は同じ文字列として扱われます。
- ¥t タブ文字を表します。
- ¥¥ ¥ 文字そのものを表します。
- ¥ddd 8 進数(ddd) の文字コードを持つ文字を表します。
- ¥T `set target-login-password` で指定されたログインパスワードに置き換えられます。
(受信待ち文字列では使えません)
- ¥U `set target-enable-password` で指定された特権パスワードに置き換えられます。
(受信待ち文字列では使えません)
- ^(コントロールコード):
- ^C C で表現される制御文字に置きかえられます。例えば、
^D は Ctrl-D 相当 の文字を表します。
- EOT (End Of Text 文字):
- 送信文字列に EOT と記述すると、EOT 文字(Ctrl-D 相当)が送信されます。
EOT そのものを送信したい場合は、'EOT'とシングルクォートで囲んで記述してください。

TIMEOUT (タイムアウト):

受信待ちする文字列のタイムアウトの初期値は 20 秒です。

この値を変更するには、以下のようにします:

```
TIMEOUT 10
login: foo
TIMEOUT 5
Password: xxxxx
```

これは **login:** プロンプトを受信待ちする際のタイムアウトを 10 秒に変更します。さらに **Password:** プロンプトを受信待ちする際には、タイムアウトを 5 秒に変更します。

一旦タイムアウト値が変更されると、次に変更されるまではその値が使用されます。

BREAK (ブレイク信号の生成):

送信文字列に **BREAK** と記述すると、ブレイク信号が送信されます。

BREAK そのものを送信したい場合は、'**BREAK**'とシングルクォートで囲んで記述してください。

その他の特殊文字列:

以下の文字列は予約語扱いとなっており、受信待ち文字列としてそのまま指定することができません。受信待ち文字列として使用する場合は、'**ABORT**'のようにシングルクォートで囲んで記述してください。

ABORT, CLR_ABORT, SAY, REPORT, CLR_REPORT, ECHO, HANGUP

メッセージ:

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が異常です	引数の数が 1 以外だった
コマンド set port でシリアルポートを指定してください	カレントポートにシリアルポートが指定されていない
監視装置名 (target-type) が" custom "の場合に限り、スクリプトを設定できます	set target-type コマンドで" custom "が指定されていない
<引数>はスクリプト名ではありません	引数が、" login ", " network-info ", " target-type "以外の文字列だった

例:

```
set script login
```

関連項目: **set no script, script-test, set [no] target-check, set [no] network-info-time**

set no script

機能： 指定したスクリプトを削除する

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： **set no script** {login|network-info|target-check}
 引数は削除するスクリプト名を指定する。

説明：

カレントポートに接続されている監視対象装置に対するスクリプトを削除する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が異常です	引数の数が 1 以外だった
コマンド set port でシリアルポートを指定してください	カレントポートにシリアルポートが指定されていない
<引数>はスクリプト名ではありません	引数が、"login","network-info","target-type"以外の文字列だった

例：

```
set no target-type network-info
```

関連項目： **set script**, **script-test** , **set [no] target-check**, **set [no] network-info-time**

script-test

機能： スクリプトをテスト実行する

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (com1,com2)、特権

書式： `script-test {com1|com2} {login|network-info|target-check}`

第 1 引数はテストを実行するポートを指定

第 2 引数はテストを行うスクリプト名を指定する。

説明：

指定したポートに対して指定したスクリプトをテスト実行する。スクリプトの動作状態や、その際のシリアル入出力の内容が表示される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が異常です	引数の数が 2 以外だった
コマンド <code>set port</code> でシリアルポートを指定してください	カレントポートにシリアルポートが指定されていない
<引数>は com ポート名ではありません	第 1 引数がシリアルポート名では無い
<引数>はスクリプト名ではありません	第 2 引数が、"login","network-info","target-type"以外の文字列だった
スクリプトが登録されていません	指定されたスクリプトがまだ登録されていない
<com ポート名>はモデムモードです スクリプトの実行は出来ません	第 1 引数で指定されたシリアルポートがモデムモード (<code>set modem</code>)になっている
<com ポート名>は端末モードです スクリプトの実行は出来ません	第 1 引数で指定されたシリアルポートが端末モード (<code>set exec</code>) になっている
<com ポート名>が使用中です	第 1 引数で指定されたシリアルポートが現在使用中

例：

```
script-test com1 target-check
```

関連項目： `set [no] script`, `set [no] target-check`, `set [no] network-info-time`

set address

機能： カレントイーサネットポートの IP アドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (eth0)、特権

書式： `set address {IP_address} {net_mask} [default_gateway]`

`set address auto`

1 行目第 1 引数は自アドレスとして設定するアドレスを指定する。

1 行目第 2 引数は「IP アドレス」に対するネットマスクを指定する。

1 行目第 3 引数はデフォルトゲートウェイのアドレスを指定する。(省略可)

2 行目の引数'auto'は IP アドレス自動設定機能を使用する事を指定する。

説明：

イーサネットのローカルコマンド。あらかじめ、'set port eth0'として設定対象となるイーサネットポートを指定する。

引数で IP アドレスを指定した場合は、カレントイーサネットポートの IP アドレスを設定し、DHCP クライアントとしての設定は無効となる。

当コマンドを実行後、IP アドレスの変更を RMC 筐体正面の LED で確認する事が出来る。

イーサネットからログインした状態で当コマンドを実行すると、接続が切れる場合があるため、注意が必要。

引数に'auto'を指定した場合、IP アドレス自動設定機能を有効にする。'write memory' 後の再起動において DHCP によるアドレス取得が出来なかった場合、または set no dhcp が設定されていた場合、IP アドレス自動設定機能によって IP アドレスが設定される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
イーサネットポートを選択してください	カレントポートが'eth0'に設定されていない
PPP 接続中は設定できません	RMC が PPP 接続の最中のためコマンド実行できない

例：

```
set address 192.168.1.101 255.255.255.0 192.168.1.1
```

IP アドレスを'192.168.1.101'、ネットマスクを'255.255.255.0' (24 ビット)、デフォルトゲートウェイを'192.168.1.1'に設定

```
set address 192.168.5.131 255.255.255.240 192.168.5.129
```

IP アドレスを'192.168.5.131'、ネットマスクを'255.255.255.240' (28 ビット)、デフォルトゲートウェイを'192.168.5.129'に設定

set address auto

関連項目 : set broadcast-address, set [no] dhcp

set no address

機能： カレントイーサネットポートの IP アドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (eth0)、特権

書式： **set no address**

説明：

set address で設定したアドレスを破棄する。または、**set address auto** の設定を解除する。現在設定されている IP アドレスは当コマンド実行時に解除はされずに、設定保存後の再起動によって解除される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された
イーサネットポートを選択してください	カレントポートが'eth0'に設定されていない

例：

set no address

関連項目： **set address**, **set broadcast-address**, **set [no] dhcp**

set broadcast-address

機能： RMC 自身のブロードキャストアドレスの設定。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (eth0)、特権

書式： **set broadcast-address {broadcast_address}**
 引数はブロードキャストアドレスを指定する。

説明：

イーサネットのローカルコマンド。あらかじめ、'set port eth0'として設定対象となるイーサネットポートを指定する。

引数で与えられたアドレスをブロードキャストアドレスとして対象となるイーサネットポートに設定する。

当コマンドで設定されたブロードキャストアドレスは'set address'コマンドによりアドレスを指定している場合にのみ有効になる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
引数が異常です	引数の数が 1 以外だった
コマンド set port でイーサネットポートを指定してください	カレントポートが指定されていないか'eth0'以外だった
PPP 接続中は設定できません	ppp 接続中

例：

```
set port eth0
```

```
set broadcast-address 192.168.1.255
```

192.168.1.255 をポート eth0 に対してブロードキャストアドレスとして設定する。

```
set port eth0
```

```
set broadcast-address 192.168.1.175
```

192.168.1.175 をポート eth0 に対してブロードキャストアドレスとして設定する。
 (サブネットアドレスの場合)

関連項目： set [no] address

set dhcp

機能：カレントイーサネットポートの DHCP クライアント機能を有効にする。

コマンド種類：ローカルコマンド、対象ポート (eth0)、特権

書式：set dhcp

説明：

イーサネットのローカルコマンド。あらかじめ、'set port eth0'として設定対象となるイーサネットポートを指定する。

イーサネットポートの DHCP クライアントとしての設定を有効にする。

'set address'コマンドで IP アドレスが設定されている場合はそのアドレスが優先され、DHCP からの情報取得は行われない。その場合は'set no address'コマンドで IP アドレスの設定を無効にする事で DHCP クライアントとしての設定を有効にする事が出来る。

この DHCP クライアントとしての設定はコマンド実行直後には有効にならず、設定を保存した後の再起動により有効になる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
イーサネットポートを選択してください	カレントポートが'eth0'に設定されていない
引数が異常です	引数が指定された

例：

```
set dhcp          ←DHCP クライアントを有効にする
set no address   ←IP アドレスのユーザ設定を無効にする
write memory     ←設定の保存
reload          ←再起動
```

関連項目： set no dhcp, set [no] address, write memory, reload

set no dhcp

機能： カレントイーサネットポートの DHCP クライアント機能を無効にする。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (eth0)、特権

書式： `set no dhcp`

説明：

イーサネットのローカルコマンド。あらかじめ、`'set port eth0'`として設定対象となるイーサネットポートを指定する。

イーサネットポートの DHCP クライアントとしての設定を無効にする。

`'set address'`コマンドで IP アドレスが設定されていない場合は、イーサネットによる接続は出来なくなる。その場合、シリアルポートからのみログインする事が出来る。(`'set exec'` コマンドの項参照)

この DHCP クライアントとしての設定の無効化は、コマンド入力直後には実行されず、設定を保存した後の再起動により反映される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
イーサネットポートを選択してください	カレントポートが'eth0'に設定されていない
引数が異常です	引数が指定された

例：

```
set no dhcp ←DHCP クライアントを無効にする
write memory ←設定の保存
reload ←再起動
```

関連項目： `set dhcp`, `set [no] address`, `write memory`, `reload`, `set [no] exec`

set filter-list

機能： 監視対象マシンのコンソールメッセージに対するフィルタの設定をする。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set filter-list** {f10|f11|...f17} [フィルタパターン]

第 1 引数はフィルタ名を指定する。

第 2 引数は設定するフィルタパターンを指定する（省略可）

説明：

引数で指定されたフィルタの設定を行う。

第 2 引数を指定した場合、第 1 引数で指定したフィルタに第 2 引数で指定したフィルタパターンが設定される。先頭または行末にスペースを指定したい場合は、フィルタパターン全体をシングルクォートで囲む事で指定可能となる。フィルタパターンの前後をシングルクォートで囲んだ場合は、そのシングルクォートは無視され内側の文字列のみが設定される。シングルクォートが先頭または行末のどちらか片方だけの時、および先頭または行末では無い時は、全てそのまま設定されるため、特にエスケープの必要はない。

第 2 引数が指定されなかった場合、当コマンドを実行すると、入力待ち状態になり、リターンキーが押されるまでに入力された文字列がフィルタの設定値となる。ここで入力した文字列は表示されたそのままの文字列が設定される。

フィルタには **POSIX 1003.2** 準拠の正規表現を設定する事が出来、フィルタの動作は、マッチした文字列のみ通過することが出来る。

当コマンドにより値を設定されたフィルタは'hook'コマンドによってメールポートに割り当てる事が出来る。フィルタを割り当てられたメールポートは'set spy'コマンドによりシリアルポートの出力を監視する際に、そのフィルタにマッチする文字列のみをメールにより送信する事が出来る。

既に'set spy'コマンドの実施により動作中のフィルタは、当コマンド実行後にメールポートからの再読み込みが行われ、最新の設定パターンによりフィルタされる。('set spy'を実行しなおす必要は無い)

f10,f11,f12,f13 のフィルタは、以下に示すように Cisco ルータ用のデフォルト設定値を持っている。

フィルタ	デフォルト値
f10 (RMS 用)	%[-a-zA-Z0-9_]*-[0-7]
f11 (緊急度：高)	%[-a-zA-Z0-9_]*-[0-2]
f12 (緊急度：中)	%[-a-zA-Z0-9_]*-[3-5]
f13 (緊急度：低)	%[-a-zA-Z0-9_]*-[6-7]

メッセージ：

メッセージ	発生原因
フィルタ名を指定してください	<ul style="list-style-type: none"> ・引数の個数が1以外 ・引数がフィルタ名ではない
<引数>はフィルタ名ではありません	第1引数がフィルタ名では無い
フィルタ文字列に間違いがあります	フィルタに不正な正規表現パターンが指定された

例：

```
# set filter-list fl4          ←コマンド実行 (fl4 の設定)
    以下にフィルタ文字列を正規表現で入力してください。
    [ENTER]で終了します。
^%                             ←パターン入力 (先頭が'%'となっている行にマッチ)
# set port ml0
(ml0)# hook fl4                ←fl4 を ml0 に割り当て
(ml0)# set spy com1 ml0       ←スパイ設定開始
```

関連項目： hook [no], set [no] spy

set keep-alive-time

機能： キープアライブメッセージの送信時刻を設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set keep-alive-time {h [,h]...} {m [,m]...}`

第 1 引数は時間を指定し、カンマで区切る事で複数の時間を指定できる。

第 2 引数は分を指定し、カンマで区切る事で複数の分を指定できる。

説明：

キープアライブメッセージを送信する時刻を設定する。

第 1 引数は時間を指定し、カンマで区切る事によって複数の時間を指定する事が出来る。

第 2 引数は分を指定し、カンマで区切る事によって複数の分を指定する事が出来る。

キープアライブメッセージが送信される時刻は第 1 引数の時間と第 2 引数の分の組み合わせの全ての時刻に送信される。例えば、第 1 引数に'6,18'を指定し、第 2 引数に'0,30'を指定した場合、毎日 6:00、6:30、18:00、18:30 にキープアライブメッセージがメール送信される (Subject: "RMC keep-alive")。

送信される宛先は'set spy'コマンドで引数'rmc'に接続されたメールポートの宛先となる。この時、メールポートに設定されたフィルタ機能は無効となる。

工場出荷時のデフォルト設定では RMC 毎に 1 日 1 回の固有の時、分が設定されている。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> 引数の数が 2 個以外 引数の長さが 100 文字を超えている
引数に誤りがあります	引数に数字とカンマ以外の文字が使用された
引数が不正です	引数の時または分が時刻の範囲を超えている

例：

`set keep-alive-time 10 5`

キープアライブメッセージ送信時刻を 10:05 に設定

`set keep-alive-time 2,10,18 15`

キープアライブメッセージ送信時刻を 2:15、10:15、18:15 に設定

関連項目： `set spy`, `set no keep-alive-time`

set no keep-alive-time

機能： キープアライブメッセージの送信を停止する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set no keep-alive-time`

説明：

キープアライブメッセージの送信を停止する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数が異常です	1 個以上の引数が指定された

例：

`set no keep-alive-time`

関連項目： `set keep-alive-time`

set mail-certification

機能： RMS からのメール受信の際にメールの認証を行う。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set mail-certification`

説明：

RMS からのコマンドメールを受信した際にメールの認証を行う。

メールの認証にはあらかじめメール送信元の公開鍵の登録をする必要がある。

当コマンドによりメール認証を行う設定の時に、RMC に公開鍵を登録していない場合や誤った署名のメール、または署名されていないなどのメールを受信した場合は、全て認証エラーとしてエラーメールを ml0 に設定されたアドレスへ送信する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が多すぎます	1 個以上の引数が指定された

例：

`set mail-certification`

関連項目： `set no mail-certification`, `set [no] public-key`

set no mail-certification

機能： RMS からのメール受信の際のメールの認証を行わない。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set no mail-certification`

説明：

RMS からのコマンドメールを受信した際のメールの認証を行わない。

当コマンド実行後に署名付きのコマンドメールを受信した場合、正しいコマンドの実行は行われ
ない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれてい ます	引数の中に記号が含まれている
引数が多すぎます	1 個以上の引数が指定された

例：

`set no mail-certification`

関連項目： `set mail-certification`

set mail-relayhost

機能： メール送信のリレーホストを指定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set mail-relayhost {relayhost}**

引数にはリレーホストの IP アドレスまたはホスト名を指定する。

説明：

RMC から送信するメールのリレーホストを指定する。

当コマンドでリレーホスト設定した以降は、RMC から発信される全てのメールはリレーホストへ送信される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
リレーホストを指定してください	引数の数が 1 個以外
PPP 接続中は設定できません	PPP ダイアルアップの最中

例：

```
set mail-relayhost 192.168.1.1
```

メールリレーホストを'192.168.1.1'に設定

関連項目： **set no mail-relayhost**

set no mail-relayhost

機能： メール送信のリレーホストの設定を解除する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set no mail-relayhost`

説明：

メールのリレーホストの設定を解除する。

メールのリレーホストの設定を解除した場合、以降は DNS による直接配送を行う。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
PPP 接続中は設定できません	PPP ダイアルアップの最中

例：

```
set no mail-relayhost
```

関連項目： `set mail-relayhost`

set mail-service

機能： メールサービスを開始する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set mail-service`

説明：

メールサービスを開始する。

当コマンドによりメールサービスの開始をしていない場合、`mail-test`、一部のセットアップインフォメール、独自暗号鍵交換メール以外のメールの送信が行われない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が多すぎます	1 個以上の引数が指定された

例：

```
set mail-service
```

関連項目： `set no mail-service`

set no mail-service

機能： メールサービスを停止する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set no mail-service`

説明：

メールサービスを停止する。

当コマンドによりメールサービスを停止した場合、**mail-test**、一部のセットアップインフォメーション、独自暗号鍵交換メール以外のメールの送信が行われない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が多すぎます	1 個以上の引数が指定された

例：

`set no mail-service`

関連項目： `set mail-service`

set mail-origin

機能： メールの送信元アドレスを設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set mail-origin** {ドメイン名}

説明：

当コマンドによりメールの送信元アドレスを設定する事で、以降の RMC から発信されるメールの'From:'ヘッダは **rmc@{設定されたドメイン名}** という形になる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
指定されたドメイン名を設定できませんでした	ドメイン名として設定できない文字列を指定した

例：

```
set mail-origin routrek.co.jp
```

関連項目： **set no mail-origin**

set no mail-origin

機能： メールを送信元アドレスを削除する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set no mail-origin`

説明：

コマンド'`set mail-origin`'により設定されたメールの送信元アドレスを無効とし、デフォルト設定値に戻す。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている

例：

```
set no mail-origin
```

関連項目： `set mail-origin`

set public-key

機能： メール認証と暗号化に使用する公開鍵の設定を行う。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set public-key**

説明：

受信メールの認証または送信メールの暗号化に使用する公開鍵の設定を行う。

当コマンドを実行すると公開鍵の入力待ち状態になる。ここで、端末の貼付け機能を使用し、あらかじめ複製した公開鍵を貼付け、EOF (CTRL-D) を入力し公開鍵の入力を終了する。登録された公開鍵は **'show key-list'** および **'show publickeys'** コマンドで確認する事が出来る。

メール送信の暗号化では、送信メールポートに設定された送信メールアドレスを検索キーとして公開鍵を決定する。そのため、メールポートに設定されたアドレスを登録する公開鍵の ID として作成しておく必要がある。

メール受信の認証では、受信メールヘッダ内の送信元アドレスをキーに公開鍵を決定する。そのため、送信元アドレスを登録する公開鍵の ID として作成しておく必要がある。

当コマンドは、シリアルポートから、あるいは **ssh** を使用して **RMC** にログインしている場合に限り実行する事ができる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
このコマンドはシリアルポートからの接続時または ssh での接続時のみ使用できます	イーサネット経由の telnet 接続で当コマンドが実行された
引数の数が多すぎます	必要の無い引数が指定された

例：

set public-key

関連項目： **show publickeys**, **set no public-key**, **show key-list**, **set [no] mail-encryption**, **set [no] mail-certification**

set no public-key

機能： 登録されている公開鍵の削除を行う。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set no public-key {key_id}**
 引数は削除したい公開鍵の ID を指定する。

説明：
 'set public-key'コマンドにより設定された公開鍵の中から引数で指定されたキーID を持つ公開鍵を削除する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
キー識別子を一つ指定してください	引数の数が 1 個以外だった

例：

```
set no public-key rms@outrek.co.jp
```

'rms@outrek.co.jp'と一致するキーID を持つ公開鍵を削除する。

関連項目： set public-key, show key-list, set [no] mail-encryption, set [no] mail-certification

show public-keys

機能： PGP 公開鍵を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `show public-keys`

説明：

RMC に登録されている PGP 公開鍵の内容をテキスト形式で表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された

例：

```
show public-keys
```

関連項目： `set [no] public-keys`, `show key-list`

show mail

機能： RMC が最後に受信したメールの内容を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： show mail

説明：

RMC が最後に受信したメールを表示する。

RMC の起動後メールの受信が 1 度も行われていない場合は何も表示されない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に使用できない記号が含まれている
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された
メールはありません	RMC の起動後 1 度もメールの受信がされていない

例：

```
show mail
```

関連項目：

set pop-username

機能： POP によるメールの取得のための設定を行う。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set pop-username {name} {password} {server_name}`

第 1 引数は POP のユーザ名を指定する。

第 2 引数はユーザ名に対するパスワードを指定する。

第 3 引数はサーバのアドレスを指定する。

説明：

POP でメールを取得するためのユーザアカウントの設定を行う。

第 1 引数には POP ユーザアカウントのユーザ名を指定する。

第 2 引数には同ユーザ名に対するパスワードを指定する。

第 3 引数には POP サーバのアドレスを指定する。アドレスには IP アドレスを指定する事も出来る。

実際に POP によるメールの取得を行うには、当コマンドによる POP アカウントの設定の他 'set pop-interval' コマンドによるメール取得間隔の設定を行う必要がある。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数が異常です	引数の数が 3 個以外だった
パスワードにクォーテーションマークは使用できません	第 2 引数のパスワードにシングルクォートまたはダブルクォートが含まれていた

例：

```
set pop-username a0013 KKJH123 pop.routrek.co.jp
```

関連項目： `set pop-interval`, `set pop-before-smtp`

set no pop-username

機能： POP メールアカウントの設定を削除する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： set no pop-username

説明：

set pop-username コマンドで設定された POP アカウント情報を削除する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
このコマンドに引数はありません	引数が指定された

例：

```
set no pop-username
```

関連項目： set pop-interval, set pop-before-smtp

set pop-before-smtp

機能： メール送信の前に POP によるメールの取得を行う設定を行う。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set pop-before-smtp [N]**

引数は POP 取得後メール送信までの待ち時間を指定する。

説明：

メール送信の前に POP によるメールの取得を行う事を設定する。引数 **N** は省略可能で、POP によるメールの取得から何秒後にメールの送信を行うかの秒数を指定する。範囲は 1～5 で引数を省略した場合は 1 になる。

なお、このコマンドによって POP before smtp 機能を有効にするには、あらかじめ **set pop-username** コマンドにより POP アカウントが正しく設定されている必要がある。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に使用できない記号が使われた
引数が多すぎます	2 個以上の引数が指定された
1～5 の数字を指定してください	引数に 1～5 以外の数字または文字が指定された

例：

```
set pop-before-smtp
set pop-before-smtp 5
```

関連項目： **set pop-interval**, **set pop-username**

set no pop-before-smtp

機能： メール送信の前に POP によるメールの取得を行う設定を解除する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set no pop-before-smtp`

説明：

メール送信の前に POP によるメールの取得を行う設定を解除する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に使用できない記号が使われた
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された

例：

```
set no pop-before-smtp
```

関連項目： `set pop-interval`, `set pop-username`

set pop-interval

機能： POP によるメール取得間隔の設定。

コマンド種類：グローバルコマンド、特権

書式： **set pop-interval {N}**

引数はメールの取得間隔を指定する。

説明：

POP によるメールの取得を引数で指定する。引数の単位は'分'、範囲は 5～1500 を指定する事が出来る。

当コマンドで POP の取得を開始する場合は、あらかじめ **set pop-username** コマンドにより POP アカウントの設定を行っておく必要がある。

また、**set pop-before-smtp** を設定していた場合、当コマンドの設定の有無または設定した間隔にかかわらず、メールの送信時に POP によるメールの取得が行われる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に使用できない記号が使われた
5～1500 の数字を指定してください	引数に 5～1500 以外の数字または文字が指定された

例：

```
set pop-interval 60
```

関連項目： **set pop-before-smtp**, **set pop-username**

set no pop-interval

機能： POP による定期的なメールの取得を停止する。

コマンド種類：グローバルコマンド、特権

書式： `set no pop-interval`

説明：

POP によるメールの定期的取得を停止する。

当コマンドにより定期的な POP によるメールの取得を停止している場合でも `set pop-before-smtp` を設定していた場合、メールの送信時に POP によるメールの取得が行われる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数に使用できない記号が使われた
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された

例：

```
set no pop-interval
```

関連項目： `set pop-before-smtp`, `set pop-username`

filter-test

機能： フィルタのテストを行う。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **filter-test {f10|f11...f17}**
引数はフィルタ名を1つ指定する。

説明：

引数で指定されたフィルタをテストする。

当コマンドを実行すると、文字入力待ち状態となる。そこにテストしたい文字列を入力し、**Enter** キーを押すと、フィルタ後の文字列が">"の後に表示される。'CTRL-D'によりコマンドの実行が終了するまで、繰り返しテストを行う事が出来る。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
引数が異常です フィルタ名を指定してください	引数の数が1個以外だった
フィルタ名を指定してください。	引数がフィルタ名では無かった
フィルタ<フィルタ名>が設定されていません	引数で指定されたフィルタの中身が未設定
フィルタ<フィルタ名>の設定に間違いがあります	引数で指定されたフィルタ内の記述に間違いがある

例：

```
show port f10
%[-a-zA-Z0-9_]*-[0-7]      ←f10 のフィルタ内容

filter-test f10             ←コマンド実行 (f10 のテスト)
  テストしたい文字列を入力し、[ENTER]を押してください。
  フィルタ処理後の文字列が">"に続いて表示されます。
  テストを終了するには、行の先頭で CTRL-D を押してください。

$aaa-111                    ←文字列'$aaa-111'をテスト
>                            ←結果、フィルタ通過せず

%aaa-111                    ←文字列'%aaa-111'をテスト
>%aaa-111                   ←結果、フィルタを通過
```

関連項目： **set filter-list, hook [no]**

mail-test

機能： テストメールの送信を行う。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **mail-test {ml0|ml1...ml7}**

引数はメールポート名を1つ指定する。

説明：

引数で指定されたメールポートのアドレスへテストメールを送信する。

主にメールアドレスの確認とメール到達性の確認に使用することが出来る。

当コマンドによるメールの発信は、電子メールサービス停止時 ('set no mail-service'設定時) であっても送信される。

なお、PPP 接続時に本コマンドを実行した場合、メールは PPP 経由で送信される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
メールポートを指定してください	引数の数が指定されなかった
メールポートは1つだけ指定できます	複数の引数が指定された
引数が異常です。	引数がメールポート名では無かった
<メールポート名>に宛先が設定されていません	引数で指定されたメールポートに宛先が設定されていない
メールの暗号化に必要なくメールポートに設定された宛先>の公開キーが登録されていません	引数で指定されたメールポートに暗号化設定がされているが、その宛先に対する公開鍵の設定がなされていない
<メールポート>に設定された宛先のドメインが見つかりません	指定されたメールポートに設定された宛先のドメインが見つからない (名前解決できない)
メールシステムが起動していません ネットワークの設定を確認してください	ネットワークの設定に問題がある等の理由で、メールシステムが起動されていない

例：

mail-test ml0

メールポート ml0 のメール到達性の確認

mail-test ml3

メールポート ml3 のメール到達性の確認

関連項目： set mailto, set [no] mail-service, set mail-encryption, ppp-on, ppp-off

show key-list

機能： 登録されている公開鍵の一覧を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `show key-list`

説明：

RMC に登録されている公開鍵の一覧を表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
引数の数が多すぎます	必要の無い引数が指定された

例：

```
show key-list
```

関連項目： `set [no] public-key`, `set [no] mail-encryption`, `set [no] mail-certification`

hook

機能： カレントメールポートにフィルタを設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： `hook {[!]fl0|[!]fl1... [!]fl7} {[!]fl0|[!]fl1... [!]fl7}...`
 引数にはフィルタ名を指定する。

説明：

メールポートのローカルコマンド。

カレントポートとして設定したメールポートに、引数で設定したフィルタを設定する。

ここで設定されたフィルタは、'set spy'コマンドにより監視設定されたメールポートの入力データに適用され、フィルタのパターンにマッチする行、(引数のフィルター名の前に'!'マークをつけた場合はマッチしない行)のみ通過することが出来る。引数には複数のフィルタ名を指定する事が可能で、複数のフィルタを指定した場合は全てのフィルタにマッチする文字列のみ通過する (AND 結合) 事が出来る。

当コマンドによるフィルタ設定の変更は、既に'set spy'コマンドによって監視設定動作中のメールポートに対しても有効となる。

各フィルタのパターンは'set filter-list'コマンドによって設定する事が出来る。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド <code>set port</code> でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない
フィルタを指定してください	<ul style="list-style-type: none"> ・引数が無い ・引数がフィルタ名では無い

例：

```

set port ml3      ←メールポート ml3 をカレントポートに指定
hook fl0 fl5     ←ml3 に fl0AND fl5 を設定
set port ml4     ←メールポート ml4 をカレントポートに指定
hook fl0 !fl3    ←ml3 に fl0 AND (NOT fl3)を設定
  
```

関連項目： `set port`, `set filter-list`, `hook no`, `set [no] spy`

hook no

機能： カレントメールポートのフィルタを設定を解除する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： `hook no`

説明：

メールポートのローカルコマンド。

あらかじめ、'`set port`'コマンドを使用しカレントポートとして設定したメールポートのフィルタ設定を解除する。メールポートに複数のフィルタが設定されている場合は当コマンドによって全て解除される。

当コマンドによるフィルタ設定の解除は、既に'`set spy`'コマンドによって監視設定動作中のメールポートに対しても有効となる。

各フィルタのパターンは'`set filter-list`'コマンドによって設定する事が出来る。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド <code>set port</code> でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない

例：

`set port ml3` ←メールポート ml3 をカレントポートに指定

`hook no` ←ml3 のフィルタ設定を解除

関連項目： `set port, hook , set [no] spy`

set errors-to

機能： エラーメールの宛先アドレスを設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： **set errors-to {mail_address}**
 引数にはメールアドレスを指定する。

説明：

メールポートのローカルコマンド。

あらかじめ、'set port'コマンドを使用しカレントポートとして設定したメールポートからメールが送信され、そのメールが送信エラーとなった場合に返信されるアドレスを設定する。当コマンドによって設定されたエラーアドレスは、メールポートから発信されるメールヘッダの'Errors-To:'フィールドに付加される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド set port でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない
アドレスを指定してください	引数が指定されなかった
アドレスを1つだけ指定してください	複数の引数が指定された
引数が異常です	引数の長さが 64 文字を超えている

例：

```
set errors-to errors@routrek.com
```

エラーメールの返信先を'errors@routrek.com'に設定

関連項目： set port, set no errors-to, set [no] mailto

set no errors-to

機能： エラーメールの宛先アドレスの設定を解除する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： **set no errors-to**

説明：

メールポートのローカルコマンド。

カレントポートとして設定されたメールポートのエラーメールの返信アドレスの設定を解除する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド set port でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない

例：

set no errors-to

関連項目： **set port, set errors-to**

set inactivity-timer

機能： カレントメールポートの無入力待ち時間の設定を行う。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： **set inactivity-timer {N}**

引数には無入力待ち時間を指定する。単位は'秒'。

説明：

メールポートのローカルコマンド。

あらかじめ、'set port'コマンドを使用しカレントポートとして設定したメールポートの無入力待ち時間を設定する。

メールポートへ最後にデータ入力されてから、ここで設定した時間次の入力が無かった場合、それまで入力されたデータをメール送信する。

当コマンドによるメールポートの無入力待ち時間は、既に'set spy'コマンドによって監視設定動作中のメールポートに対しても有効となる。

メールポートのメール送信条件は、当コマンドによる無入力待ち時間および'set max-nmr-of-chars', 'set max-nmr-of-lines'コマンドによる送信メールの最大サイズまたは行数の設定によって決定される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド set port でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない
秒を指定してください	引数が無い
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> 引数に指定された数字が大きすぎる(最大 999 まで) 引数が数字ではない

例：

set inactivity-timer 20

無入力待ち時間を 20 秒に設定

set inactivity-timer 5

無入力待ち時間を 5 秒に設定

関連項目： set max-nmr-of-lines, set port, set [no] spy, set max-nmr-of-chars, set no inactivity-timer

set no inactivity-timer

機能： カレントメールポートの無入力待ち時間の設定を解除する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： **set no inactivity-timer**

説明：

メールポートのローカルコマンド。

あらかじめ、'**set port**'コマンドを使用しカレントポートとして設定したメールポートの無入力待ち時間の設定を解除する。

当コマンドによるメールポートの無入力待ち時間の解除は、既に'**set spy**'コマンドによって監視設定動作中のメールポートに対しても有効となる。

当コマンドにより無入力待ち時間を解除された場合、入力データ量が'**set max-nmr-of-chars**'または'**set max-nmr-of-lines**'コマンドにより設定された送信メールの最大サイズに達するまでメールは送信されない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド set port でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない

例：

set no inactivity-timer

関連項目： **set max-nmr-of-lines**, **set port**, **set [no] spy**, **set max-nmr-of-chars**, **set inactivity-timer**

set mailto

機能： カレントメールポートのメール送信アドレスを設定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： **set mailto {mail_address}**
 引数にはメールアドレスを指定する。

説明：

カレントポートとして設定したメールポートのメール送信アドレスを設定する。
 当コマンドで設定されたメールアドレスに誤りがあった場合は正しくメールは送信されない。
 'mail-test'コマンドによって、メールポートに設定されたアドレスが正しく送信されるかどうかの送信テストを行う事が出来る。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド set port でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない
アドレスを指定してください	引数が指定されなかった
アドレスを1つだけ指定してください	複数の引数が指定された
引数が異常です	引数の長さが 64 文字を超えている

例：

```
set mailto rms@routrek.co.jp
  メールを送信先を' rms@routrek.co.jp 'に設定
```

関連項目： mail-test, set port, set no mailto, set [no] errors-to

set no mailto

機能： カレントメールポートのメール送信アドレスの設定を解除する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： **set no mailto**

説明：

カレントポートとして設定したメールポートのメール送信アドレスの設定を解除する。
当コマンド実行後は、対象メールポートからのメール送信は出来なくなる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド set port でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない

例：

set no mailto

関連項目： **set port**, **set mailto**, **set [no] errors-to**

set mail-encryption

機能： カレントメールポートにメール発信時の暗号化を指定する。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0~ml7)、特権

書式： **set mail-encryption [res]**

引数の'res'は独自暗号化を行う事を示し、メールポート'ml0'に対してのみ有効。

説明：

メールポートのローカルコマンド。

カレントポートとして設定したメールポートにメール送信時の **pgp** 暗号化を設定する。

メールの暗号化にはあらかじめメール宛先の **PGP** 公開鍵の登録をする必要がある。登録には、**set public-key** コマンドを実行する。公開鍵はメールポートに設定されたメールアドレスをキーとして **RMC** に登録された公開鍵から検索される。

引数'res'を指定した場合は独自暗号方式を使用し送信メールを暗号化する。この時 **pgp** のような公開鍵を設定しておく必要はないが、対応する **RMS** のメールアドレスが **ml0** に設定されていて、その **RMS** とメールによる相互通信ができる事が条件となる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド set port でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない
引数が異常です	必要の無い引数が指定された
"res"は ml0 にのみ設定可能です	ml0 以外のメールポートに対して引数"res"を指定した

例：

```
set mail-encryption
```

```
set mail-encryption res
```

関連項目： **set port**, **set mailto**, **set no mail-encryption**, **set [no] mail-certification**, **set [no] public-key**

set no mail-encryption

機能： カレントメールポートのメール発信時の暗号化をしない指定にする。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： **set no mail-encryption**

説明：

メールポートのローカルコマンド。

カレントポートとして設定したメールポートからのメール送信時に暗号化を行わない設定にする。

当コマンドによるメールポートの設定の変更は、既に'**set spy**'コマンドによって監視設定動作中のメールポートに対しても有効となる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド set port でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない
引数が異常です	必要の無い引数が指定された

例：

set no mail-encryption

関連項目： **set port**, **set mailto**, **set mail-encryption**, **set [no] mail-certification**, **set [no] public-key**

set max-nmr-of-chars

機能： カレントメールポートの送信最大文字数の設定を行う。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： **set max-nmr-of-chars {N}**

引数は 1 メールあたりの最大文字数を指定する。

説明：

メールポートのローカルコマンド。

あらかじめ、'set port'コマンドを使用しカレントポートとして設定したメールポートから送信される 1 メールあたりの最大文字数を設定する。ここで指定される最大文字数はメールヘッダを含まない本文のみの最大サイズを示す。また、メールの暗号化を行った場合、送信されるメールは当コマンドで設定された最大文字数を超える場合がある。

メールポートへ入力されるデータの文字数が、ここで設定された文字数に達した時点で、それまでに受信したデータを送信する。

当コマンドによるメールポートの最大文字数の設定は、既に'set spy'コマンドによって監視設定動作中のメールポートに対しても有効となる。

メールポートのメール送信は、当コマンドによる最大送信サイズまたは'set max-nmr-of-lines'による最大行数または'set inactivity-timer'コマンドによる無入力待ち時間の設定のいずれかの条件が満たされた場合に送信される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド set port でメールポートを選択してください。	カレントポートがメールポートに設定されていない
制限文字数を指定してください。	引数が無い
引数が異常です。	<ul style="list-style-type: none"> 引数に指定された数字が大きすぎる (最大 99999 まで) 引数が数字ではない

例：

```
set max-nmr-of-chars 6000
```

送信メールの最大文字数を 6000 文字に設定

```
set max-nmr-of-chars 30000
```

送信メールの最大文字数を 30000 文字に設定

関連項目： **set port**, **set [no] spy**, **set [no] inactivity-timer**, **set max-nmr-of-lines**

set max-nmr-of-lines

機能： カレントメールポートの送信最大行数の設定を行う。

コマンド種類： ローカルコマンド、対象ポート (ml0～ml7)、特権

書式： **set max-nmr-of-lines {N}**

引数は 1 メールあたりの最大行数を指定する。

説明：

メールポートのローカルコマンド。

あらかじめ、'set port'コマンドを使用しカレントポートとして設定したメールポートから送信される 1 メールあたりの最大行数を設定する。ここで指定される最大行数はメールヘッダを含まない本文のみの最大行数を示す。また、メールの暗号化を行った場合、送信されるメールは当コマンドで設定された最大行数を超える場合がある。

メールポートへ入力されるデータの行数が、ここで設定された行数に達した時点で、それまでに受信したデータを送信する。

当コマンドによるメールポートの最大行数の設定は、既に'set spy'コマンドによって監視設定動作中のメールポートに対しても有効となる。

メール送信は、当コマンドによる最大行数または'set max-nmr-of-chars' による最大文字数または'set inactivity-timer'コマンドによる無入力待ち時間の設定のいずれかの条件が満たされた場合に送信される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
コマンド set port でメールポートを選択してください	カレントポートがメールポートに設定されていない
制限文字数を指定してください	引数が無い
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> 引数に指定された数字が大きすぎる (最大 99999 まで) 引数が数字ではない

例：

```
set max-nmr-of-lines 100
```

送信メールの最大行数を 100 行に設定

```
set max-nmr-of-lines 250
```

送信メールの最大行数を 250 行に設定

関連項目： set port, set [no] spy, set [no] inactivity-timer, set max-nmr-of-chars

set arp

機能： ARP アドレスのマッピング・エントリーを設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set arp {xx.xx.xx.xx} {yy:yy:yy:yy:yy:yy}`
 xx.xx.xx.xx は IP アドレス、yy:yy:yy:yy:yy:yy は MAC アドレスを指定する

説明：

ARP アドレスのマッピング・エントリーを手動設定する。

引数に IP アドレスと MAC アドレスを指定し、それらを対として登録する。

MAC アドレスは 16 進数の数字 12 桁を、桁を区切らずに入力するか、または 2 桁ごとにコロンによって区切って入力する事が出来る。

当コマンドにより登録された arp エントリは'show arp'コマンドによって確認する事が出来る。

また、登録された arp エントリは'write memory'コマンドによって保存する事は出来ない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に使用出来ない記号が含まれている
IP アドレスと MAC アドレスを指定してください	引数の数が 2 個以外
引数が異常です	引数の長さが 64 文字を超えている
IP アドレスを指定してください	第 1 引数に指定された文字列が IP アドレスではない

例：

`set arp 192.168.3.123 00:90:CC:A5:BC:26`

ホスト 192.168.3.123 に対するハードウェア・アドレスを 00:90:CC:A5:BC:26 に設定する。

`set arp 192.168.3.201 0090CCA5BC27`

ホスト 192.168.3.201 に対するハードウェア・アドレスを 00:90:CC:A5:BC:27 に設定する。

関連項目： show arp, clear arp

show arp

機能： 現在の ARP アドレスのマッピング・エントリを表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `show arp`

説明：

現在 RMC に登録されている全ての ARP アドレスのマッピング・エントリを表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるだけでエラーとはならない

例：

```
show arp
```

関連項目： `set arp`, `clear arp`

clear arp

機能： 登録されている ARP アドレスのマッピング・エントリを削除する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `clear arp {xx.xx.xx.xx}`

引数は IP アドレスまたはホスト名を指定する。

説明：

指定されたホストのすべてのエントリを削除する。

現在 RMC に登録されている全ての ARP アドレスのマッピング・エントリを表示する。

当コマンドにより登録された arp エントリは'show arp'コマンドによって確認する事が出来る。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
IP アドレスを指定してください	引数が無い
引数が異常です	引数の長さが 64 文字を超えている

例：

`clar arp 192.168.4.104`

ホスト 192.168.4.104 の ARP マッピング・エントリを全て削除

`clar arp 192.168.20.5`

ホスト 192.168.20.5 の ARP マッピング・エントリを全て削除

関連項目： `set arp`, `show arp`

set domain-name

機能： RMC に自身のドメイン名を設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set domain-name {domain_name}`
引数にはドメイン名を指定する。

説明：

RMC 自身のドメイン名を設定する。

当コマンドで設定されたドメイン名は'show hostname'コマンドで確認する事が出来る。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
ドメイン名を指定して下さい	引数の数が 1 個ではない
引数が異常です	引数の長さが 64 文字を超えている

例：

```
set domain-name abc.routrek.com
```

ドメインネームを'abc.routrek.com'に設定

```
set domain-name routrek.co.jp
```

ドメインネームを'routrek.co.jp'に設定

関連項目： `show hostname`

set no domain-name

機能： 設定されているドメイン名を削除する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set no domain-name**

説明：

コマンド'**set domain-name**'で設定された RMC 自身のドメイン名を無効とする。
当コマンドでドメイン名を無効とした場合でも、DHCP により再設定される場合がある。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている

例：

set no domain-name

関連項目： **set domain-name**, **set [no] dhcp**, **show hostname**

set hostname

機能： RMC に自身のホスト名を設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set hostname {host_name}`
 引数にはホスト名を指定する。

説明：

RMC 自身のホスト名を設定する。

当コマンドで設定されたドメイン名は'show hostname'コマンドで確認する事が出来る他、RMC シェルのプロンプトにも表示される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> 引数の長さが 64 文字を超えている 引数の数が 1 個ではない

例：

```
set hostname myrmc
```

ホスト名を'myrmc'に設定

```
set hostname rmc005
```

ホスト名を'rmc005'に設定

関連項目： show hostname

show hostname

機能： RMC に自身のホスト名とドメイン名を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： show hostname

説明：

RMC 自身のホスト名およびドメイン名 (FQDN) を表示する。

ドメイン名は'set domain-name'コマンドにより設定されていない場合は表示されない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるだけでエラーとはならない

例：

```
show hostname
```

関連項目： set host-name, set domain-name

set hosts

機能： 名前解決リストへのホストの追加。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set hosts {host_name} {xx.xx.xx.xx}**

第 1 引数にはホスト名、

第 2 引数には IP アドレスを指定する。

説明：

名前解決のためのホスト名のルックアップテーブルに引数で指定されたホスト名及び IP アドレスの対を追加する。

このルックアップテーブルは、DNS が利用できない場合や DNS に登録されていない名前の解決のために利用する事が出来、'show hosts'コマンドにより登録内容を表示させる事が出来る。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> 引数の数が 2 個ではなかった 引数の文字列が 64 文字を超えている
IP アドレスを指定してください	第 2 引数が IP アドレスではない

例：

```
set hosts abc.routrek.com 192.168.55.1
```

IP アドレス'192.168.55.1'をホスト名'abc.routrek.com'として登録。

```
set hosts rmc02 192.168.15.2
```

IP アドレス'192.168.15.2'をホスト名'rmc02'として登録。

関連項目： set no hosts, show hosts

set no hosts

機能： 名前解決リストのホストの削除。

マンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set no hosts {host_name}**
 引数にはホスト名を指定する。

説明：

名前解決のためのホスト名のルックアップテーブルから引数で指定されたホスト名を削除する。

当コマンド実行の際、引数で指定されたホスト名がルックアップテーブルに存在しなかった場合でも、特にエラーとはならない。削除が成功したかどうかは'**show hosts**'コマンドにより登録内容を表示させる事で確認する事が出来る。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が異常です	<ul style="list-style-type: none"> 引数の数が1個ではなかった 引数の文字列が64文字を超えている

例：

set no hosts abc.routrek.com

ホスト名'**abc.routrek.com**'をルックアップテーブルから削除。

set no hosts rmc02

ホスト名'**rmc02**'をルックアップテーブルから削除。

関連項目： **set hosts, show hosts**

show hosts

機能： 名前解決リストの表示。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： `show hosts`

説明：

名前解決のためのホスト名のルックアップテーブルを表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数はないが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるだけでエラーとはならない

例：

`show hosts`

関連項目： `set [no] hosts`

set name-servers

機能： RMC にネームサーバ(DNS)の IP アドレスを設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set name-servers {xx.xx.xx.xx} [yy.yy.yy.yy]`

第 1 引数にはネームサーバの IP アドレスを指定する。

第 2 引数にはセカンダリネームサーバの IP アドレスを指定する。(省略可)

説明：

ネームサーバの IP アドレスを RMC に設定する。

設定されたネームサーバとの通信が正しく行われているかどうかは、'host'コマンドを使用し、確認する事が出来る。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
ネームサーバを指定して下さい。	引数が無い
引数が異常です	引数の文字数が 64 文字を超えている
IP アドレスを指定してください	引数が IP アドレスではない
PPP 接続中は設定できません	PPP のダイヤルアップ最中

例：

```
set name-servers 192.168.100.2
```

'192.168.100.2'をネームサーバとして設定。

```
set name-servers 192.168.100.2 192.168.100.3
```

'192.168.100.2'をプライマリ、'192.168.100.3'をセカンダリネームサーバとして設定。

関連項目： `set no name-servers`, `host`, `set domain-name`, `set [no] hosts`

set no name-servers

機能： RMC に設定されているネームサーバ(DNS)の設定を削除する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set no name-servers {xx.xx.xx.xx}**

引数には削除したいネームサーバの IP アドレスを指定する。

説明：

ネームサーバの設定を削除する。

当コマンドにより、プライマリ、セカンダリネームサーバのどちらか片方を削除する事が出来る。

同時に 2 つのネームサーバの設定を削除する事は出来ない。

プライマリネームサーバを削除した場合、以降（設定されていれば）セカンダリネームサーバがプライマリとして使用される。

全てのネームサーバの設定が削除された場合、ホストの名前解決はルックアップテーブルのみで行う。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
削除するネームサーバを指定して下さい	引数の数が 1 個ではない
引数が異常です。	引数の文字数が 64 文字を超えている
IP アドレスを指定してください	引数が IP アドレスではない
PPP 接続中は設定できません	PPP のダイヤルアップ最中

例：

```
set no name-servers 192.168.100.2
```

'192.168.100.2'をネームサーバの設定から削除。

```
set no name-servers 192.168.100.3
```

'192.168.100.3'をネームサーバの設定から削除。

関連項目： set name-servers, host,set domain-name, set [no] hosts

set ntp-server

機能： NTP サーバ名を設定する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set ntp-server {ntp_server}**
 引数には NTP サーバ名を指定する。

説明：

時刻の同期を行う NTP サーバ名を設定する。

RMC は当コマンドで設定された NTP サーバと定期的に交信を行うことで、システムクロックを正しい状態に保持する事が出来る。

設定される NTP サーバ名は、ネットワーク上で到達可能なサーバで無ければならない。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
サーバを指定して下さい	引数の数が 1 個ではない
引数が異常です	引数の文字数が 64 文字を超えている
(Warning) NTP サーバが応答しないか、または NTP サービスが利用できません	設定された NTP サーバと交信出来ない

例：

```
set ntp-servers ntp.routrek.co.jp
'ntp.routrek.co.jp'を NTP サーバに設定。
```

関連項目： **set no ntp-server, show date**

show tcp

機能： 現在の TCP コネクションの状態を表示する。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： `show tcp`

説明：

現在の RMC とのアクティブな TCP 接続を表示する。

表示される情報は、送受信のエラーバイト数、接続先ホストアドレス、自アドレス、接続サービス名、接続状態等。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている *注

*注：本来引数は無いが、記号を含まない文字を引数に指定しても無視されるだけでエラーとはならない

例：

```
[rmc@myrmc]# show tcp
```

```
Active Internet connections (w/o servers)
```

```
Proto Recv-Q Send-Q Local Address          Foreign Address        State
tcp          0      0 192.168.1.110:telnet  192.168.1.101:3734    ESTABLISHED
ok
```

関連項目：

set no ntp-server

機能： NTP サーバの設定を削除する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set no ntp-server`

説明：

RMC に登録されている NTP サーバのアドレスを削除する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
引数が異常です	必要の無い引数が指定された

例：

`set no ntp-servers`

関連項目： `set ntp-servers`

show ssh-hostkey

機能： ssh ホスト鍵を表示する

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： show ssh-hostkey

説明：

RMC の ssh ホスト鍵を表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された

例：

```
show ssh-hostkey
```

関連項目： show ssh-key-list, show ssh-public-key, set ssh-public-key

show ssh-key-list

機能： ssh 公開鍵の一覧を表示する

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： show ssh-hostkey

説明：

RMC に設定されている ssh 公開鍵の一覧を表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された

例：

```
show ssh-key-list
```

関連項目： show ssh-hostkey, show ssh-public-keys, set ssh-public-key

show ssh-public-keys

機能： ssh 公開鍵の内容を表示する

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： show ssh-public-keys

説明：

RMC に設定されている全ての ssh 公開鍵の内容を、テキスト形式で表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された

例：

```
show ssh-public-keys
```

関連項目： show ssh-hostkey, show ssh-key-list, set ssh-public-key

set ssh-protocol

機能： 接続を許可する ssh プロトコルを設定する

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `set ssh-protocol {ssh1|ssh2}...`

引数には ssh のプロトコルを指定する。

説明：

接続を許可する ssh プロトコルを指定する。引数は複数指定可。デフォルトは SSH1 および SSH2 の両方のプロトコルが許可されている。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
使用する ssh プロトコルを指定してください	引数が指定されなかった
引数が多すぎます	引数が 3 個以上指定された
有効な引数ではありません ssh1,ssh2 が指定できます	'ssh1'、'ssh2'以外の文字列が引数に指定された
同じ引数が 2 つ指定されています	指定された 2 つの引数が同じ引数だった

例：

```
set ssh-protocol ssh1
```

```
set ssh-protocol ssh1 ssh2
```

関連項目： `set ssh-public-key`, `set ssh-authentication`, `set [no] ssh-public-key`

set ssh-authentication

機能： `ssh` の認証方式を指定する

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

対応 RMC バージョン： 1.0

書式： `set ssh-authentication {password|public-key}...`

引数は認証方式を指定する。

説明：

`ssh` の認証方式を指定する。引数は複数指定可で、`'password'`（パスワード認証）または `'public-key'`（公開鍵認証）のどちらかの文字列を指定する事が出来る。両方同時に指定する事も可能。デフォルトは両方の認証方式が指定されている。

なお、公開鍵認証を使用する場合は、`set ssh-public-key` での `ssh` 公開鍵の登録が必要になる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
使用する <code>ssh</code> の認証方式を指定してください	引数が指定されなかった
引数が多すぎます	引数が 3 個以上指定された
有効な引数ではありません <code>password,public-key</code> が指定できます	<code>'password','public-key'</code> 以外の文字列が引数に指定された
同じ引数が 2 つ指定されています	指定された 2 つの引数が同じ引数だった

例：

```
set ssh-authentication password
```

```
set ssh-authentication password public-key
```

関連項目： `set ssh-protocol`, `set [no] ssh-public-key`

set ssh-public-key

機能： ssh 認証用の公開鍵を設定する

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： set ssh-public-key

説明：

ssh 認証用の公開鍵を設定する。このコマンドの起動後、別途作成したテキスト形式の ssh 公開鍵をターミナルから貼り付け、CTRL-D を入力する。このコマンドは、シリアルポートから、あるいは ssh を使用して RMC にログインしている場合に限り実行できる。登録できる ssh 公開鍵は、SSH1, SSH2(RSA), SSH2(DSA)のいずれでも可能。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
このコマンドはシリアルポートからの直接接続時または ssh での接続時のみ使用できます	telnet での接続状態でこのコマンドを実行した
このコマンドに引数は必要ありません	引数が指定された
ssh の公開鍵ではありません	ssh 公開鍵ではない文字列が入力された
キーIDがありません	入力された ssh 公開鍵にキーIDが無い
キーID<キーID>は既に登録済みです	既に登録されている ssh 公開鍵を再度登録しようとした
公開鍵が入力されていません	公開鍵の入力が無かった

例：

```
set ssh-public-key
```

関連項目： set ssh-authentication, set ssh-protocol, show ssh-public-key, set no ssh-public-key

set no ssh-public-key

機能： ssh 認証用の公開鍵を削除する

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： **set no ssh-public-key {key_id}**
 引数には削除する ssh 公開鍵のキーID を指定する

説明：

引数で指定されたキーID(公開鍵に付与されたコメント)を持つ ssh 公開鍵を削除する。
 このコマンドは、シリアルポートから、あるいは ssh を使用して RMC にログインしている場合に限り実行できる。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
このコマンドはシリアルポートからの直接接続時または ssh での接続時のみ使用できます	telnet での接続状態でこのコマンドを実行した
ssh 公開鍵のキーID を 1 つ指定してください	引数が指定されなかった

例：

```
set no ssh-public-key abc@host01
```

関連項目： show ssh-public-key, set ssh-public-key

host

機能： DNS サーバを利用し、ホスト名の検索を行う。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： `host {host_name}`

引数にはホスト名または IP アドレスを指定する。

説明：

引数で指定されたホスト名を DNS サーバに問い合わせ、結果を表示する。

当コマンドにおいてホスト名の検索を行うには、DNS サーバのアドレスが RMC に正しく設定されている必要がある。

DNS サーバのアドレスの設定方法は、DHCP による自動取得と、'set name-servers' コマンドによる手動設定とがある。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
ホスト名または IP アドレスを指定して下さい	引数が無い

例：

```
host rms.routrek.com
```

```
'rms.routrek.com'の検索
```

関連項目： `set [no] name-servers`, `set [no] dhcp`

ping

機能： 指定したホストへの接続を検査する。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： `ping {host_name}`

引数にはホスト名または IP アドレスを指定する。

説明：

引数で指定されたホストに対して、ICMP の ECHO_REQUEST パケットを送信し、パケットの応答の有無を表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
ホスト名または IP アドレスを指定して下さい	引数が無い

例：

```
ping rms.routrek.com
```

'rms.routrek.com'の応答を検査する。

関連項目： `traceroute`

traceroute

機能： 指定したホストへの経路設定を検査する。

コマンド種類： グローバルコマンド

書式： `traeroute {host_name}`

引数にはホスト名または IP アドレスを指定する。

説明：

引数で指定されたホストまでのネットワーク到達経路を表示する。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
ホスト名または IP アドレスを指定して下さい	引数が無い

例：

```
traceroute rms.routrek.com
```

'rms.routrek.com'までのネットワーク到達経路を表示する。

関連項目： ping

ppp-on

機能： PPP 接続テストを開始する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `ppp-on`

説明：

PPP ダイアルアップ接続を行う PPP 接続のテスト用コマンド。

あらかじめ'`set ppp-username`'コマンドによって設定されたダイアルアップ先に接続する。

なお、PPP 接続中に `mail-test` コマンドを実行した場合、メールは PPP 経由で送信される。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
COM2 からログイン中です	com2 ポートからログイン中のため、モデムが利用できない
<code>set modem</code> コマンドでモデム使用可能な状態にして下さい	com2 ポートがモデム使用のモードになっていない
<code>set ppp-username</code> コマンドで PPP 接続情報を設定して下さい	' <code>set ppp-username</code> 'コマンドで PPP 接続先の設定がされていない
既に PPP 接続中です	PPP ダイアルアップ接続の最中
PPP 接続ができませんでした	(何らかの理由で) PPP ダイアルアップに失敗した

例：

`ppp-on`

関連項目： `ppp-off`, `set modem`, `set user-name`, `show log ppp`

ppp-off

機能： PPP 接続を終了する。

コマンド種類： グローバルコマンド、特権

書式： `ppp-off`

説明：

PPP ダイアルアップ接続を切断する。PPP 接続のテスト用コマンド。

メッセージ：

メッセージ	発生原因
引数に使用できない文字が含まれています	引数の中に記号が含まれている
PPP 接続中ではありません	現在 PPP ダイアルアップ接続されていない

例：

```
ppp-off
```

関連項目： `ppp-on`, `show log ppp`

索引 (Alphabetic)

clear arp.....	125
connect.....	1
copy.....	3
disable.....	6
enable.....	5
exit.....	7
filter-test.....	108
hook.....	111
hook no.....	112
host.....	145
mail-test.....	109
ping.....	146
ppp-off.....	149
ppp-on.....	148
quit.....	8
reload.....	9
script-test.....	79
set access-list.....	14
set address.....	80
set arp.....	123
set broadcast-address.....	83
set connect-log.....	63
set csize.....	49
set date.....	18
set dhcp.....	84
set domain-name.....	126
set enable-password.....	25
set errors-to.....	113
set escape-character.....	20
set exec.....	54
set exec-timeout.....	22
set filter-list.....	86
set flowcontrol.....	50
set hostname.....	128
set hosts.....	130
set inactivity-timer.....	115
set keep-alive-time.....	88
set mail-certification.....	90
set mail-encryption.....	119
set mail-origin.....	96
set mail-relayhost.....	92
set mail-service.....	94
set mailto.....	117
set max-nmr-of-chars.....	121
set max-nmr-of-lines.....	122
set modem.....	56
set name-servers.....	133
set network-info-time.....	65
set no access-list.....	16
set no address.....	82
set no connect-log.....	64
set no dhcp.....	85
set no domain-name.....	127
set no errors-to.....	114
set no exec.....	55
set no exec-timeout.....	23
set no hosts.....	131
set no inactivity-timer.....	116
set no keep-alive-time.....	89
set no mail-certification.....	91
set no mail-encryption.....	120
set no mail-origin.....	97
set no mail-relayhost.....	93
set no mail-service.....	95
set no mailto.....	118
set no modem.....	58
set no name-servers.....	134
set no network-info-time.....	66
set no ntp-server.....	137
set no pop-before-smtp.....	105
set no pop-interval.....	107
set no pop-username.....	103
set no ppp-server.....	62
set no ppp-username.....	60
set no prompt.....	37
set no public-key.....	99
set no script.....	78
set no spy.....	30
set no ssh-public-key.....	144
set no target-check.....	72

set no target-enable-password	70	show spy	31
set no target-login-password.....	68	show ssh-hostkey	138
set no user-name	33	show ssh-key-list.....	139
set ntp-server.....	135	show ssh-public-keys.....	140
set parity.....	51	show tcp.....	136
set password	24	show tech-support	46
set pop-before-smtp	104	show user-names.....	34
set pop-interval.....	106	show users	38
set pop-username	102	show version.....	48
set port.....	26	shutdown	10
set ppp-server	61	traceroute	147
set ppp-username.....	59	upgrade.....	11
set prompt.....	36	write erase.....	13
set public-key.....	98	write memory	12
set script	74		
set speed	52		
set spy	28		
set ssh-authentication.....	142		
set ssh-protocol.....	141		
set ssh-public-key	143		
set stopbits.....	53		
set target-check	71		
set target-enable-password.....	69		
set target-login-password.....	67		
set target-type	73		
set user-name	32		
set user-password.....	35		
show access-list	17		
show arp	124		
show configuration	39		
show date.....	19		
show hostname	129		
show hosts	132		
show key-list.....	110		
show log	45		
show mail.....	101		
show memory.....	47		
show port	27		
show public-keys	100		
show running-config.....	42		

製品に対するお問い合わせ

製品に関する技術的なご質問や障害に関するお問い合わせは、下記にて、電子メールまたは FAX でお受けしております。

ルートマジック・サポートセンター

- 電子メール

support@routrek.co.jp

- FAX

044-829-4362

また、弊社ホームページ上でも製品に関する最新情報をご案内しております。
下記ホームページをご参照ください。

ホームページ

<http://www.routrek.co.jp>



株式会社ルートレック・ネットワークス
〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-5-7 ニッセイ新溝ノロビル
Tel. 044-829-4361 Fax. 044-829-4362